(4) 植物、動物及び生態系

1) 陸域生物

(ア) 陸上植物

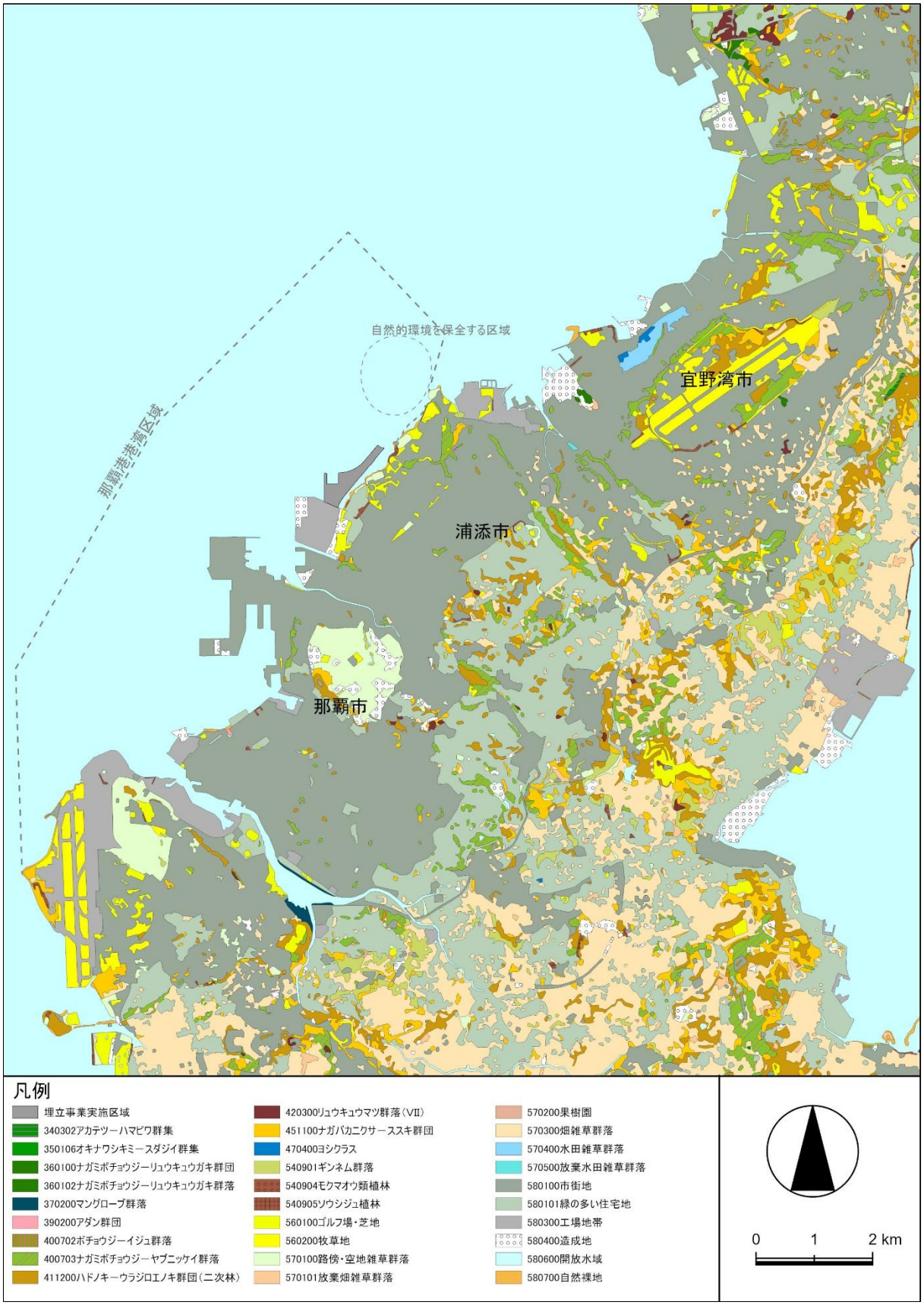
ア) 文献その他の資料調査

文献その他の資料調査の概要は表 3.2.120 に示すとおりである。

環境省が平成 16 年度に実施した「第 6 回自然環境保全基礎調査　植生調査」の結果は、図 3.2.53 に示すとおりであり、埋立事業実施区域及びその周辺の植生は、主にナガミボチョウジーヤブニッケイ群落、ハドノキーウラジロエノキ群落、畑雑草群落及びナガバカニクサーススキ群落となっている。

表 3.2.120　文献その他の資料調査の概要（陸上植物）

調査項目	植生の分布状況
実施機関	環境省生物多様性センター
報告書名	第 6 回自然環境保全基礎調査植生調査報告書
調査時期	平成 16 年度
調査位置	沖縄島
調査方法	資料調査、ヒアリング調査、現地確認調査



出典：「第 6 回自然環境保全基礎調査植生調査報告書」（環境省生物多様性センター）
（http://gis.biodic.go.jp/webgis/）

図 3.2.53　現存植生図

沖縄県教育庁文化財課がとりまとめた「令和6年度版 文化財課要覧（抜粋版)」によると、天然記念物の植物群落としては、表 3.2.121 に示すとおりである。

環境庁が平成9年度及び平成10年度に実施した「第5回自然環境保全基礎調査　特定植物群落調査」によると、学術上重要な植物群落は、表 3.2.122、図 3.2.54 に示すとおりである。

表 3.2.121　天然記念物の植物群落

名　　称	指定状況
首里金城の大アカギ	国指定の天然記念物
識名園のシマチスジノリ発生地	国指定の天然記念物
ガーナー森	那覇市指定の天然記念物
内間の大アカギ	浦添市指定の天然記念物
屋富祖の御願所のガジュマル	浦添市指定の天然記念物
大謝名メーヌカー淡水紅藻	宜野湾市指定の天然記念物

出典：「令和7年度版　文化財課要覧（抜粋版)」（沖縄県教育庁文化財課）

表 3.2.122　学術上重要な特定植物群落

名　　称	選定基準
首里金城の大アカギ	E
那覇市漫湖のサーザ森のナハキハギ群落	C、G
那覇市末吉の植生	E

注：特定植物群落の選定基準

A;原生林もしくはそれに近い自然林（特に照葉樹林についてはもれのないように注意すること）

B;国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群

C;比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群

D;砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの（特に湿原についてはもれのないように注意すること）

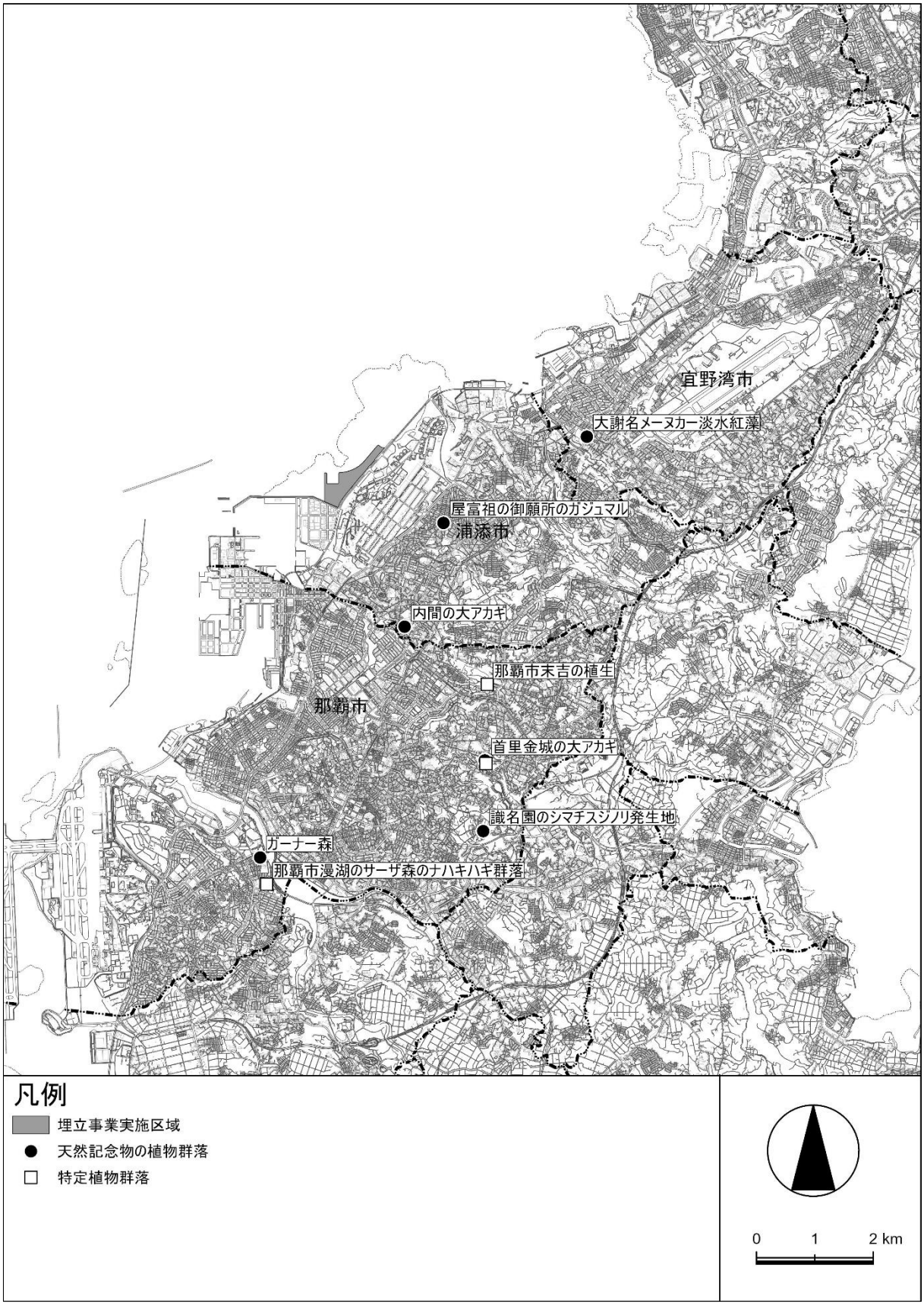
E;郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの（武蔵野の雑木林、阿蘇の山地草原、各地の社寺林等。特に郷土景観を代表する二次林や二次草原についてはもれのないよう注意すること）

F;過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの

G;乱獲その他の人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群

H;その他、学術上重要な植物群落または個体群（種の多様性の高い群落、貴重種の生息地となっている群落等)

出典：「第5回自然環境保全基礎調査　特定植物群落調査」（平成12年3月、環境庁）



出典：1.「令和 7 年度版　文化財課要覧（抜粋版）」（沖縄県教育庁文化財課）
2.「第 5 回自然環境保全基礎調査　特定植物群落調査報告書」（平成 12 年 3 月、環境庁）

図 3.2.54　特定植物群落の分布状況

イ）既存の現地調査

(a) 調査概要

埋立事業実施区域及びその周辺の植物相及び植生の状況について、平成 25 年度における陸上植物の調査概要は表 3.2.123 に、調査測線及び地点図は図 3.2.55 に示すとおりである。

表 3.2.123　植物相、植生、微気象の調査概要（平成 25 年度）

調査項目	植物相の状況
実施機関	浦添市土地開発公社
報告書名	那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査(現地調査)業務委託報告書
調査期間	●植物相 冬季：平成 26 年 2 月 18,19,24,25 日　春季：平成 26 年 4 月 22,23 日、5 月 1,2 日 夏季：平成 26 年 8 月 6,21～23,25 日　秋季：平成 26 年 10 月 14,15,21,22 日 ●植生 秋季：平成 26 年 10 月 20, 23 日 ●微気象 冬季：平成 26 年 2 月 17 日～23 日　春季：平成 26 年 5 月 16 日～22 日 夏季：平成 26 年 8 月 22 日～28 日　秋季：平成 26 年 10 月 24 日～30 日
調査位置	●植物相：図 3.2.55 に示す 4 測線 ●植生　：図 3.2.55 に示す 4 測線 ●微気象：図 3.2.55 に示す 1 地点
調査方法	●植物相 調査地域内を任意に踏査し、目撃法によって確認した維管束植物及び蘚苔類を記録した。環境省及び沖縄県のレッドデータブック等に記載される重要な植物種が確認された場合は、位置及び生育状況等を記録した。また、現地で同定出来ない場合は、一部採集を行い、室内にて同定した。 ●植生 航空写真や既存資料を用いて、植生分布図の下図を作成した後、任意踏査により、確認された植生の分布状況（相観と優占種をもとに植生区分する）を 1/5000 程度のスケールの地形図に記録し、現存植生図を作成した。区分した植生のうち、代表的なものについては群落組成調査を行った。また、現存植生図を作成した後、環境省及び沖縄県のレッドデータブック等に記載される重要な植生（重要な植物群落）を抽出した。 ●微気象 風向・風速は、「地上気象観測指針」（平成 14 年　気象庁）に基づき、地上 10.0m の測定高で、風速 0.4m/s から 0.1m/s 単位で観測できる風車型風向風速計を用い測定を行った。気温・湿度は、地上 1.5m の測定高で、電気式温度計を用い測定を行った。

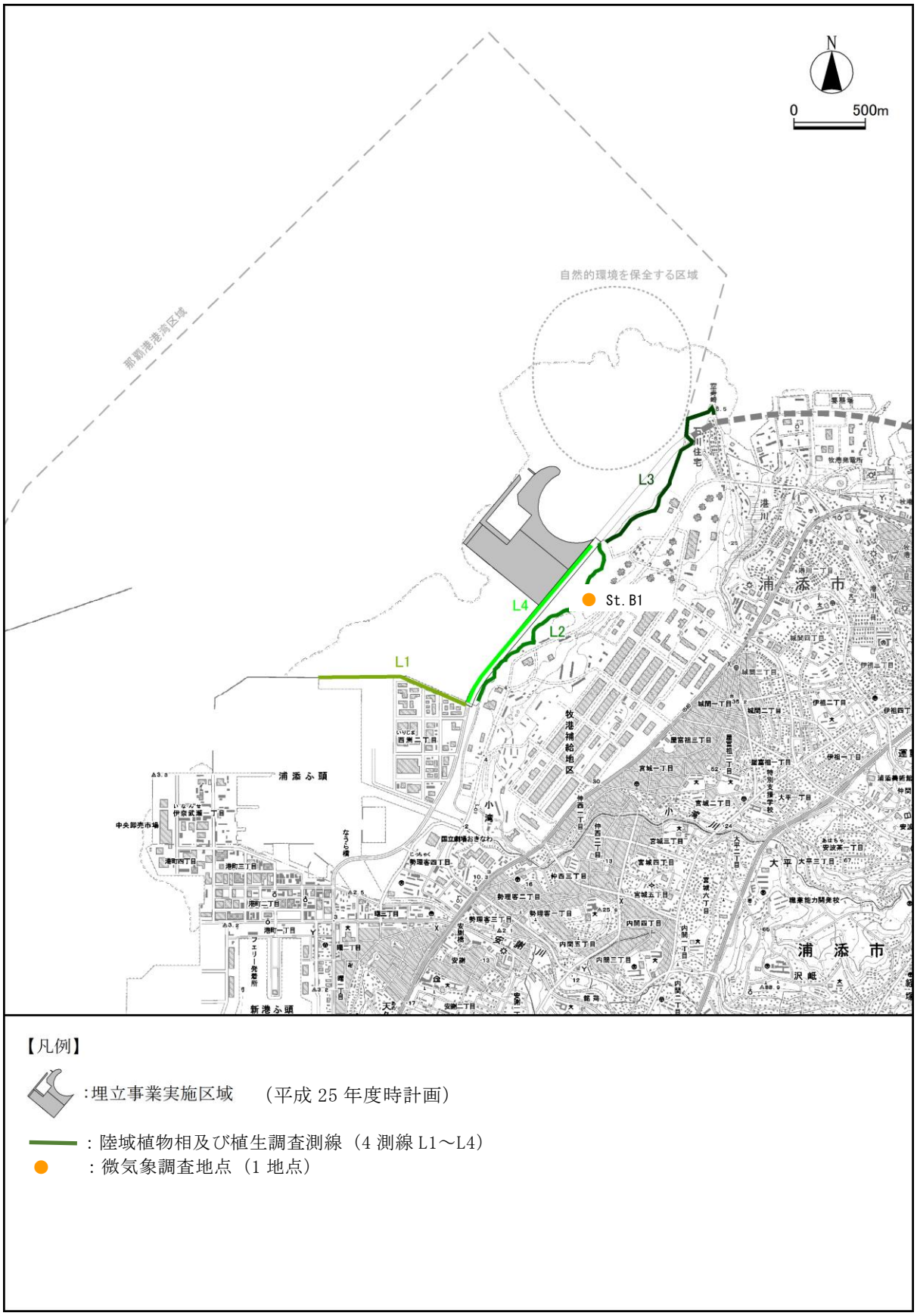


図 3.2.55　既存の現地調査測線及び地点（平成 25 年度）

(b) 調査結果（平成 25 年度）

a) 植物相

平成 25 年度における維管束植物及び蘚苔類の調査結果は、表 3.2.124 及び表 3.2.125 に示すとおりである。維管束植物は、76 科 260 種、蘚苔類は 7 科 12 種確認された。

維管束植物は、埋立事業実施区域北側（L3）では 64 科 183 種、埋立事業実施区域南側（L1、L2、L4）では、61 科 212 種が確認された。蘚苔類は、埋立事業実施区域北側（L3）では 3 科 5 種、埋立事業実施区域南側（L1、L2、L4）では、7 科 10 種が確認された。

表 3.2.124　維管束植物の調査結果概要

調査地域 / 項目	埋立事業実施区域北側	埋立事業実施区域南側	全体
確認種数	64 科 183 種	61 科 212 種	76 科 260 種
主な確認種	クサトベラ オオハマボウ アダン ナピアグラス パラグラス ススキ ギョウギシバ 等	クサトベラ オオハマボウ アダン モクマオウ ツノクサネム ハイキビ 等	

注：1.埋立事業実施区域は平成 25 年度時計画を示す。
2.「埋立事業実施区域北側」は調査測線（L3）及び調査地点（St.1、St.2）の調査結果を、「埋立事業実施区域南側」は調査測線（L1、L2、L4）及び調査地点（St.3）の調査結果を整理している。

表 3.2.125　蘚苔類の調査結果概要

調査地域 / 項目	埋立事業実施区域北側	埋立事業実施区域南側	全体
確認種数	3 科 5 種	7 科 10 種	7 科 12 種
主な確認種	トウヨウネジクチゴケ カタハマキゴケ 等	トウヨウネジクチゴケ カタハマキゴケ ヒョウタンゴケ ホソウリゴケ ナガハハリガネゴケ 等	

注：1.埋立事業実施区域は平成 25 年度時計画を示す。
2.「埋立事業実施区域北側」は調査測線（L3）及び調査地点（St.1、St.2）の調査結果を、「埋立事業実施区域南側」は調査測線（L1、L2、L4）及び調査地点（St.3）の調査結果を整理している。

b) 重要な種の出現状況

平成 25 年度における確認された重要な種は表 3.2.126 及び表 3.2.127 に示すとおりである。

表 3.2.126　重要な種一覧（維管束植物）

調査期日：　冬季　平成 26 年 2 月 24,25 日
春季　平成 26 年 5 月 1,2 日
夏季　平成 26 年 8 月 6,25 日
秋季　平成 26 年 10 月 14,15 日

No.	科名	和名	調査時期				重要な種の選定基準			
			冬季	春季	夏季	秋季	天然記念物 ①	種の保存法 ②	環境省 RL ③	沖縄県 RDB ④
1	タデ	コギシギシ	●	●					準絶滅危惧	
2	スベリヒユ	オキナワマツバボタン			●	●			絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠB類
3	ニシキギ	ハリツルマサキ	●	●	●	●			準絶滅危惧	
4	イソマツ	イソマツ	●		●	●			絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠB類
5	カキノキ	リュウキュウコクタン	●	●	●	●			準絶滅危惧	
5	ラン	エダウチヤガラ			●					絶滅危惧Ⅱ類
6		キヌラン	●							絶滅危惧IA類
合計	6科	7種	5	3	5	4	0	0	5	4

表 3.2.127　重要な種一覧（蘚苔類）

調査期日：　冬季　平成 26 年 2 月 18,19 日
春季　平成 26 年 4 月 22,23 日
夏季　平成 26 年 8 月 21～23 日
秋季　平成 26 年 10 月 21,22 日

No.	科名	種名	調査時期				重要な種の選定基準			
			冬季	春季	夏季	秋季	天然記念物 ①	種の保存法 ②	環境省 RL ③	沖縄県 RDB ④
1		確認なし								
合計	0科	0種	0	0	0	0	0	0	0	0

＜重要な種の選定基準＞

注：以下の①～④に該当しているものを「重要な種」として選定した。
①天然記念物：「文化財保護法」（法律第 214 号、昭和 25 年 5 月 30 日）及び「沖縄県文化財保護条例」（条例第 25 号、昭和 47 年 5 月 15 日）により、保護されている種及び亜種
・特天：国指定特別天然記念物　　・国天：国指定天然記念物　　・県天：沖縄県指定天然記念物
②種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（法律第 715 条、平成 4 年 6 月 5 日）において以下の項目に選定される種及び亜種
・国内希少：国内希少野生動植物種　　・国際希少：国際希少野生動植物種
③環境省 RL：「環境省第５次レッドリスト（植物・菌類）の公表について」（環境省、令和 7 年 3 月 18 日）に記載されている種及び亜種
・CR+EN（絶滅危惧Ⅰ類）：絶滅の危機に瀕している種
・CR（絶滅危惧ⅠA 類）：絶滅の危機に瀕している種のうち、ごく近い将来における野生での絶滅の可能性が極めて高いもの
・EN（絶滅危惧ⅠB 類）：絶滅の危機に瀕している種のうち、IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
・VU（絶滅危惧Ⅱ類）：絶滅の危険が増大している種
・NT（準絶滅危惧）：存続基盤が脆弱な種。現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
・DD（情報不足）：評価するだけの情報が不足している種
・LP（絶滅のおそれのある地域個体群）：地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群
④沖縄県 RDB：「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第 3 版（菌類編・植物編）―レッドデータおきなわ―」（沖縄県、平成 30 年）に記載されている種及び亜種
・CR+EN（絶滅危惧Ⅰ類）：沖縄県では絶滅の危機に瀕している種
・CR（絶滅危惧ⅠA 類）：沖縄県ではごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
・EN（絶滅危惧ⅠB 類）：沖縄県ではⅠA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
・VU（絶滅危惧Ⅱ類）：沖縄県では絶滅の危機が増大している種
・NT（準絶滅危惧）：沖縄県では存続基盤が脆弱な種
・DD（情報不足）：沖縄県では評価するだけの情報が不足している種
・LP（絶滅のおそれのある地域個体群）：沖縄県で地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれの高いもの

c）植生

平成 25 年度における植物群落の出現状況は、表 3.2.128 に、分布図は図 3.2.56 に示すとおりである。

調査の結果、植物群落は 25 群落に区分された。

表 3.2.128 植物群落の出現状況

No	植生凡例番号	基本分類	群落名	群落調査地点	面積(ha)
1	1	海岸高木林	ガジュマル群落	2	0.25
2	2	海岸高木林～海岸低木林	アダン群落	9,24	0.21
3	3		オオハマボウ群落	21,26	0.24
4	4		クサトベラ群落	7,22	0.83
5	31		モモタマナ群落	25	0.01
6	11	低木林	ギンネム群落	20	1.05
7	6	海浜草地	キダチハマグルマ群落	11	0.11
8	7		ハマササゲ群落	1	0.12
9	23		コウライシバ群落	27	0.03
10	25		スナヅル群落	19	0.02
11	32		ハイシバ群落	23	0.01
12	13	背の高い草地	ススキ群落	8	0.40
13	33		ツノクサネム群落	14	0.21
14	14		ナピアグラス群落	3	0.16
15	15	背の低い草地	ハイキビ群落	15	2.21
16	16		チガヤ群落	6	0.45
17	22		シロノセンダングサ群落	4	0.25
18	26		パラグラス群落	13	0.71
19	27		アメリカハマグルマ群落	17	0.10
20	34		オオアブラガヤ群落	5	0.07
21	35		ギョウギシバ群落	10	0.64
22	36		クグテンツキ群落	16	0.13
23	37		ヒメオニササガヤ群落	12	0.31
24	38	植林	モクマオウ植林	18	0.26
25	18	人工草地	シバ群落	28	5.10

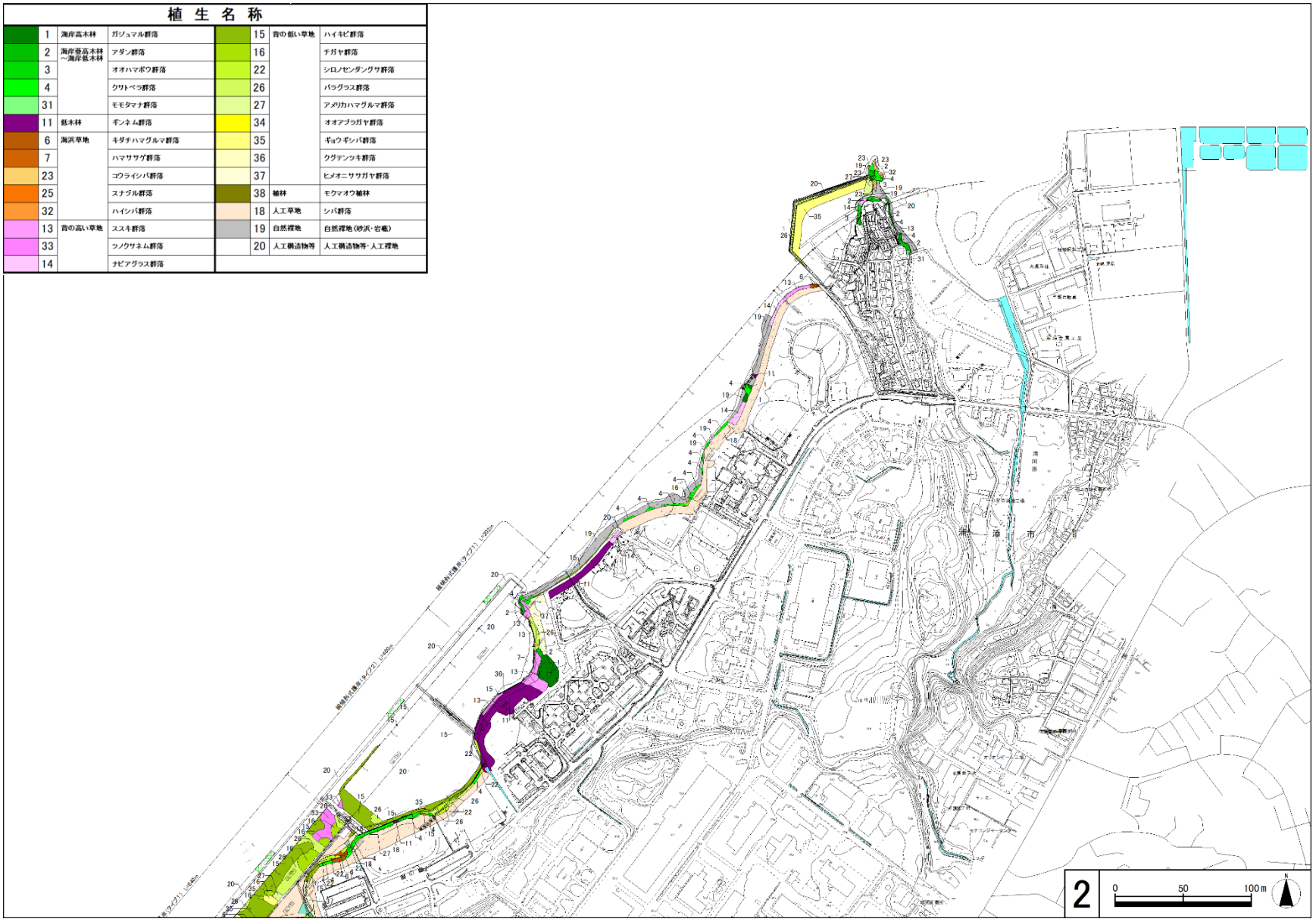


図 3.2.56(1)　植物群落の分布（北側）

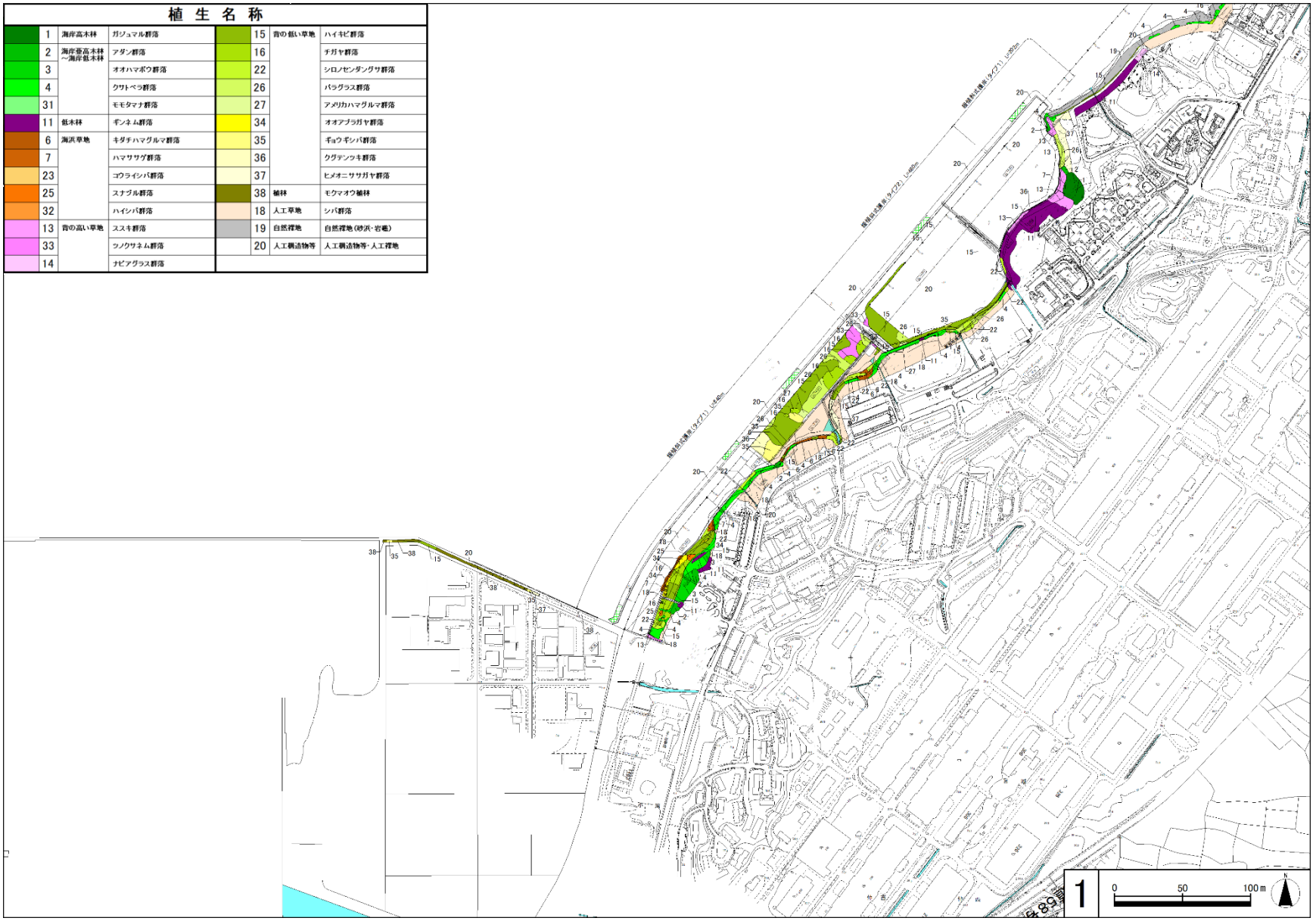


図 3.2.56(2)　植物群落の分布（南側）

d) 重要な植物群落の出現状況

平成 25 年度に埋立事業実施区域及びその周辺で確認された植物群落のうち、表 3.2.130 の基準のいずれかに該当する群落を重要な植物群落として抽出した。

平成 25 年度における抽出の結果は、表 3.2.129 に示すとおりであり、9 群落が重要な植物群落として抽出された。

表 3.2.129 重要な植物群落

No	群落名	天然記念物	植生自然度	特定植物群落	植物群落 RDB
1	ガジュマル群落		9	該当 (A)	
2	アダン群落		9	該当 (A・D・H)	掲載
3	オオハマボウ群落		9	該当 (A・D・H)	掲載
4	クサトベラ群落		9	該当 (A・D・H)	掲載
5	キダチハマグルマ群落		10	該当 (D)	
6	ハマササゲ群落		10	該当 (D)	
7	コウライシバ群落		10	該当 (D・H)	掲載
8	スナヅル群落		10	該当 (D)	
9	ハイシバ群落		10	該当 (D)	
合計	9 群落	0	9	9	4

表 3.2.130 重要な植物群落の選定基準

略称	基準法令・基準文献等	判定基準
天然記念物	「文化財保護法」 「沖縄県文化財保護条例」 「那覇市文化財保護条例」 「豊見城市文化財保護条例」	国、県、市の天然記念物
植生自然度	「日本の植生Ⅱ」(平成 16 年、環境省自然環境局)	植生自然度 9・10 に該当する植物群落 (表 3.2.131 参照)
特定植物群落	「第 2 回特定植物群落調査報告書」(昭和 53 年、環境庁) 「第 3 回特定植物群落調査報告書」(昭和 63 年、環境庁) 「第 5 回特定植物群落調査報告書」(平成 12 年、環境庁)	特定植物群落選定基準に該当する植物群落 (表 3.2.132 参照)
植物群落 RDB	「植物群落レッドデータ・ブック」(平成 8 年、(財)日本自然保護協会・(財)世界自然保護基金日本委員会)	掲載されている植物群落

表 3.2.131　植生自然度区分基準

植生自然度	区分内容	区分基準
10	自然草原	高山ハイデ、風衝草原、自然草原等、自然植生のうち単層の植物社会を形成する地区
9	自然林	エゾマツ - トドマツ群集、ブナ群集等、自然植生のうち多層の植物社会を形成する地区
8	二次林 (自然林に近いもの)	ブナ・ミズナラ再生林、シイ・カシ萌芽林等代償植生であっても、特に自然植生に近い地区
7	二次林	クリ - ミズナラ群落、クヌギ - コナラ群落等、一般には二次林と呼ばれる代償植生地区
6	植林地	常緑針葉樹、落葉針葉樹、常緑広葉樹等の植林地
5	二次草原 (背の高い草原)	ササ群落、ススキ群落等の背丈の高い草原
4	二次草原 (背の低い草原)	シバ群落等の背丈の低い草原
3	農耕地 (樹園地)	果樹園、桑畑、茶畑、苗圃等の樹園地
2	農耕地(水田、畑地) 緑の多い住宅地	畑地、水田等の耕作地、緑の多い住宅地
1	市街地、造成地等	市街地、造成地等の植生のほとんど存在しない地区
その他	自然裸地	—
	開放水域	—
	不明区分	—

出典：「日本の植生Ⅱ」（平成 16 年、環境省自然環境局）

表 3.2.132　特定植物群落選定基準

区分	選定基準
A	原生林もしくはそれに近い自然林
B	国内若干地域に分布するが、極めてまれな植物群落または個体群
C	比較的普通にみられるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地にみられる植物群落または個体群
D	砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの
E	郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの
F	過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの
G	乱獲、その他人為の影響によって、当該都道府県で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群
H	その他、学術上重要な植物群落または個体群

出典：「第 5 回特定植物群落調査報告書」（平成 12 年、環境庁）

e）微気象

平成 25 年度における気象の調査結果は、表 3.2.133 及び図 3.2.57 に示すとおりである。

表 3.2.133　気象調査結果(St.B1)

冬季		単位	平成 26 年							期間内
			2/17	2/18	2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	
風向	最多風向	16 方位	S	SSW	NNW	NNW	NNE	NNE	NNE	NNW
風速	日平均値	m/s	5.6	4.0	8.7	10.0	4.6	2.7	2.3	5.4
気温	日平均値	℃	19.7	20.1	17.2	16.1	15.5	16.1	17.3	17.4
湿度	日平均値	%	66	88	88	66	63	60	61	70

春季		単位	平成 26 年							期間内
			5/16	5/17	5/18	5/19	5/20	5/21	5/22	
風向	最多風向	16 方位	NNE	ENE	S	W	S	NNW	NNE	N
風速	日平均値	m/s	3.0	2.8	4.3	2.6	5.2	5.0	2.5	3.6
気温	日平均値	℃	23.1	24.1	24.9	25.5	25.7	23.2	20.6	23.9
湿度	日平均値	%	82	76	93	91	90	76	84	85

夏季		単位	平成 26 年							期間内
			8/22	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27	8/28	
風向	最多風向	16 方位	E	NW	SE	SE	W	NNE	ENE	SE
風速	日平均値	m/s	2.0	1.5	2.4	2.9	1.6	1.7	2.2	2.0
気温	日平均値	℃	29.6	29.5	29.6	30.7	30.4	30.3	31.0	30.2
湿度	日平均値	%	79	81	83	79	80	80	77	80

秋季		単位	平成 26 年							期間内
			10/24	10/25	10/26	10/27	10/28	10/29	10/30	
風向	最多風向	16 方位	NNE	E	SE	NNE	NE	E	E	ENE
風速	日平均値	m/s	4.9	2.0	3.4	7.7	6.7	4.9	4.6	4.9
気温	日平均値	℃	24.3	25.2	26.2	25.1	24.2	24.2	24.7	24.8
湿度	日平均値	%	74	77	85	76	64	69	67	73

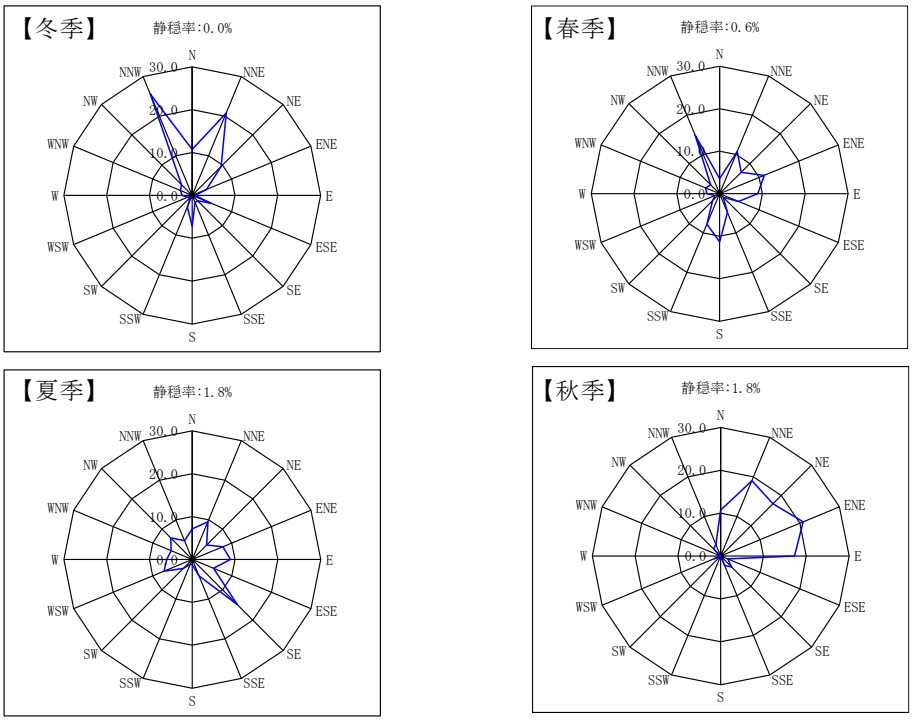


図 3.2.57　気象調査結果(St.B1)

（イ）陸上動物

ア）文献その他の資料調査

沖縄県教育庁文化財課がとりまとめた「令和 6 年度版 文化財課要覧（抜粋版）」において、指定されている文化財保護法に基づく天然記念物は、表 3.2.134 に示すとおりである。

陸上動物の注目すべき生息地について、表 3.2.135 に示す選定根拠を踏まえて確認状況を整理したところ、埋立事業実施区域及びその周辺において、陸上動物の注目すべき生息地はない。

表 3.2.134　周辺における天然記念物（陸上動物）

指定主体	種別	No.	名称	指定年月日	備考（所在地など）
国指定	特別天然記念物	1	コウノトリ	昭31. 7.19	所在地、地域を定めず指定する
		2	アホウドリ	昭37. 4.19	所在地、地域を定めず指定する
		3	ノグチゲラ	昭52. 3.15	所在地、地域を定めず指定する
		4	カンムリワシ	昭52. 3.15	所在地、地域を定めず指定する
	天然記念物	5	アカヒゲ	昭45. 1.23	所在地、地域を定めず指定する
		6	オカヤドカリ	昭45.11.12	所在地、地域を定めず指定する
		7	カラスバト	昭46. 5.19	所在地、地域を定めず指定する
		8	ジュゴン	昭47. 5.15	所在地、地域を定めず指定する
		9	ケナガネズミ	昭47. 5.15	所在地、地域を定めず指定する
		10	トゲネズミ	昭47. 5.15	所在地、地域を定めず指定する
		11	セマルハコガメ	昭47. 5.15	所在地、地域を定めず指定する
		12	リュウキュウキンバト	昭47. 5.15	所在地、地域を定めず指定する
		13	ダイトウオオコウモリ	昭48. 6. 2	所在地、地域を定めず指定する
		14	カンムリウミスズメ	昭50. 6.26	所在地、地域を定めず指定する
		15	イイジマムシクイ	昭50. 6.26	所在地、地域を定めず指定する
		16	キシノウエトカゲ	昭50. 6.26	所在地、地域を定めず指定する
		17	リュウキュウヤマガメ	昭50. 6.26	所在地、地域を定めず指定する
		18	ヤンバルクイナ	昭57.12.18	所在地、地域を定めず指定する
		19	ヤンバルテナガコガネ	昭60. 5.14	所在地、地域を定めず指定する
県指定	天然記念物	20	フタオチョウ	昭44. 8.26	所在地、地域を定めず指定する
		21	コノハチョウ	昭44. 8.26	所在地、地域を定めず指定する
		22	イボイモリ	昭53.11. 9	所在地、地域を定めず指定する
		23	クロイワトカゲモドキ(マダラトカゲモドキも含む)	昭53.11. 9	所在地、地域を定めず指定する
		24	ヨナグニサン	昭60. 3.29	所在地、地域を定めず指定する
		25	ホルストガエル	昭60. 3.29	所在地、地域を定めず指定する
		26	ナミエガエル	昭60. 3.29	所在地、地域を定めず指定する
		27	イシカワガエル	昭60. 3.29	所在地、地域を定めず指定する
		28	アマミヤマシギ	平 6. 2. 4	所在地、地域を定めず指定する
宜野湾市	天然記念物	29	ウデナガサワダムシ	昭51. 5.29	真志喜マヤーアブ

出典：「令和 7 年度版　文化財課要覧（抜粋版）」（沖縄県教育庁文化財課）

表 3.2.135　陸上動物の注目すべき生息地の選定根拠

No.	略称	文献および法令	選定根拠となる区分
①	天然記念物	「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号） 「沖縄県文化財保護条例」（昭和 47 年条例第 25 号） 「浦添市文化財保護条例」（昭和 48 年条例第 24 号） 「宜野湾市文化財保護条例」（昭和 62 年条例第 23 号） 「那覇市文化財保護条例」（昭和 48 年条例第 24 号） 「豊見城市文化財保護条例」（平成 3 年条例第 32 号）	国指定特別天然記念物 国指定天然記念物 沖縄県指定天然記念物 浦添市指定天然記念物 宜野湾市指定天然記念物 那覇市指定天然記念物 豊見城市指定天然記念物
②	条例	「沖縄県希少野生動植物保護条例」（令和元年条例第 46 号）	沖縄県指定希少野生動植物種
③	ラムサール	「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」（ラムサール条約）（昭和 55 年条約第 28 号）	条約湿地
④	県保全指針	「自然環境保全に関する指針　沖縄島編」（平成 10 年、沖縄県）	評価ランクⅠ（自然環境の厳正な保護を図る区域）
⑤	重要湿地	「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」（環境省自然環境局自然環境計画課、令和 8 年 5 月閲覧）	選定基準（基準１～5）

イ）既存の現地調査

(a) 調査概要

埋立事業実施区域及びその周辺の陸上動物の出現状況について、平成 25 年度及び令和 3 年度における陸上動物の調査概要は、表 3.2.136～表 3.2.140 に、調査地点は図 3.2.58～図 3.2.60 に示すとおりである。

表 3.2.136 哺乳類、両生類、爬虫類の調査概要（平成 25 年度）

調査項目	哺乳類、両生類、爬虫類の出現状況
実施機関	浦添市土地開発公社
報告書名	那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査(現地調査)業務委託報告書
調査期間	●定点調査、測線調査 冬季：平成 26 年 2 月 3～5 日　　春季：平成 26 年 4 月 28～30 日 夏季：平成 26 年 8 月 11～13 日　秋季：平成 26 年 10 月 14～16 日
調査位置	●定点調査：図 3.2.58 に示す 3 地点 ●測線調査：図 3.2.58 に示す 4 測線
調査方法	●定点調査 （哺乳類）各定点にシャーマン型トラップを 20 基設置し、設置の翌日及び翌々日に確認して、目撃法やフィールドサイン法では確認が困難な小型哺乳類の捕獲を行い、確認した哺乳類を記録した。 （両生類）調査地域内を任意に踏査し、目撃や捕獲によって両生類の成体や幼生、卵塊、卵嚢を確認するとともに、鳴き声によっても確認する。夜行性の種については夜間にも確認を行った。 （爬虫類）調査地域内を任意に踏査し、目撃や捕獲によって爬虫類の成体や幼体を確認するとともに、ヘビ類については抜け殻によっても確認した。また、夜行性の種については夜間にも確認を行った。 ●測線調査 （哺乳類）調査地域内を任意に踏査し、目撃法によって糞・足跡・毛等の痕跡等を確認した哺乳類を記録した。夜行性の哺乳類については夜間の目撃法、小型コウモリ類はバットディテクターによる鳴き声の確認を実施した。

表 3.2.137(1)　鳥類の調査概要（平成 25 年度）

調査項目	鳥類の出現状況
実施機関	浦添市土地開発公社
報告書名	那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査(現地調査)業務委託報告書
調査期間	●定点調査、測線調査 越冬期：平成 26 年 2 月 5,6 日　　春の渡り期：平成 26 年 4 月 7,8 日 繁殖期/春：平成 26 年 5 月 7,8 日　繁殖期/夏：平成 26 年 8 月 13,14 日 秋の渡り期：平成 26 年 11 月 6,7 日
調査位置	●定点調査：図 3.2.59（1）に示す 4 地点 ●測線調査：図 3.2.59（1）に示す 4 測線
調査方法	●定点調査 定点において、目視観察により出現する鳥類の種別個体数、出現環境、行動、確認位置等を記録した。調査は干潮時・満潮時に実施することとし、目視観察には、プロミナ（倍率 20 倍程度の望遠鏡)、双眼鏡（倍率 8～10 倍程度)、カウンターなどを使用した。 ●測線調査 測線において、時速 1.5～2.5km 程度で歩きながら、目視観察、または鳴き声等によって確認された鳥類の種類、個体数、出現環境、行動、確認位置等を記録した。調査は早朝、日中、夕方に実施した。

表 3.2.137(2)　鳥類の調査概要（令和 3 年度）

調査項目	鳥類の出現状況
実施機関	那覇港管理組合
報告書名	令和 3 年度那覇港港湾計画環境調査業務委託
調査期間	夏季①：令和 3 年 8 月 24 日　　秋季　：令和 3 年 10 月 21 日 冬季　：令和 4 年 1 月 19 日　　春季　：令和 4 年 4 月 15 日 夏季②：令和 4 年 7 月 11 日 ※アジサシ類の飛来状況を踏まえ、実施した。
調査位置	●定点調査：図 3.2.59（2）に示す 6 地点
調査方法	●定点調査 満潮時と干潮時に、潮止まりの時間をまたぐように 30 分間定点調査を行い、目視観察により種類別個体数や出現位置を記録した。目視観察には、プロミナ(倍率 20 倍程度の望遠鏡)、双眼鏡(倍率 8～10 倍程度)、カウンターなどを使用した。

表 3.2.138　昆虫類の調査概要（平成 25 年度）

調査項目	昆虫類の出現状況
実施機関	浦添市土地開発公社
報告書名	那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査(現地調査)業務委託報告書
調査期間	●定点調査、測線調査 冬季：平成 26 年 2 月 3～5 日　　春季：平成 26 年 4 月 14～16 日 夏季：平成 26 年 7 月 19～21 日　秋季：平成 26 年 11 月 17～20 日
調査位置	●定点調査：図 3.2.58 に示す 3 地点 ●測線調査：図 3.2.58 に示す 4 測線
調査方法	●定点調査 ベイトトラップ法：定点に誘引餌を入れたプラスチックコップ等を地面と同じ高さになるように埋設し、1 晩設置後に回収し、誘引されて容器内に落ちた徘徊性の昆虫類を採集し、室内にて同定した。 ライトトラップ法：小型のライトを殺虫剤入りの袋をつけた大型ロート上で一晩点灯し、光源に集まった昆虫類が袋に落ち込んだものを採集し、室内にて同定した。 ●測線調査 調査地域内を任意に踏査し、目撃法、見つけ採り法、スウィーピング法及びビィーティング法により、昆虫類相を記録した。

表 3.2.139　陸生貝類の調査概要（平成 25 年度）

調査項目	陸生貝類の出現状況
実施機関	浦添市土地開発公社
報告書名	那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査(現地調査)業務委託報告書
調査期間	●測線調査 冬季：平成 26 年 2 月 3～5 日　　春季：平成 26 年 4 月 14～16 日 夏季：平成 26 年 7 月 19～21 日　秋季：平成 26 年 11 月 17～20 日
調査位置	●測線調査：図 3.2.58 に示す 4 測線
調査方法	●測線調査 調査地域内を任意に踏査し、目撃法及び見つけ採り法によって確認した陸生貝類（成体や幼生）を記録するとともに、脱け殻等の痕跡を記録した。

表 3.2.140　オカヤドカリ類の調査概要（平成 25 年度）

調査項目	オカヤドカリ類の出現状況
実施機関	浦添市土地開発公社
報告書名	那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査(現地調査)業務委託報告書
調査期間	●測線調査 冬季：平成 26 年 2 月 10 日　　春季：平成 26 年 5 月 7 日 夏季：平成 26 年 8 月 11 日　　秋季：平成 26 年 11 月 10 日
調査位置	●測線調査：図 3.2.60 に示す 4 測線
調査方法	●測線調査 夜間（おおよそ日没後 2～3 時間）に調査測線（海岸線）を往復踏査し、出現したオカヤドカリ類の種類と個体数、位置を記録した。

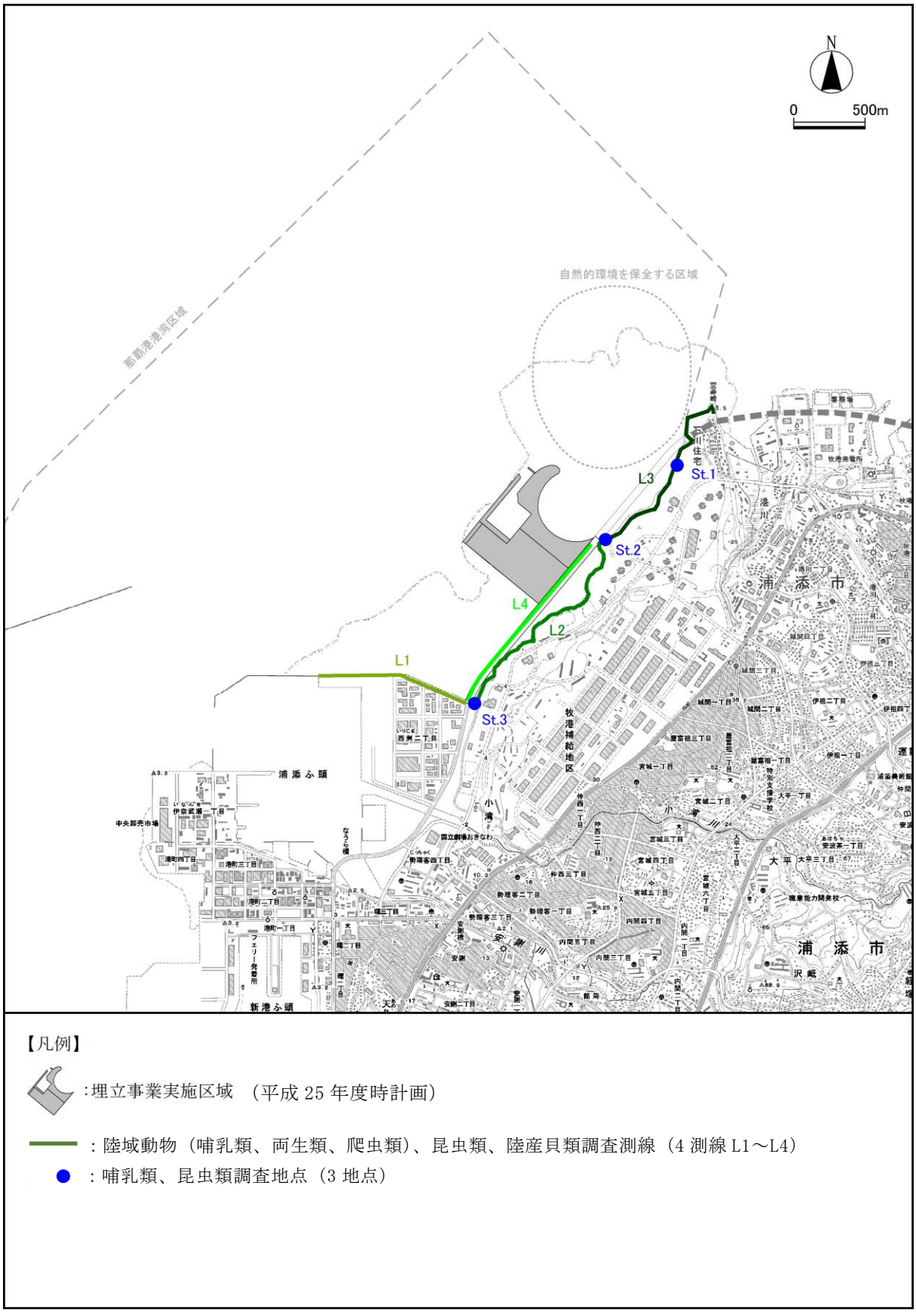


図 3.2.58　既存の現地調査地点及び測線（平成 25 年度、
陸域動物（哺乳類、両生類、爬虫類）、昆虫類、陸産貝類）

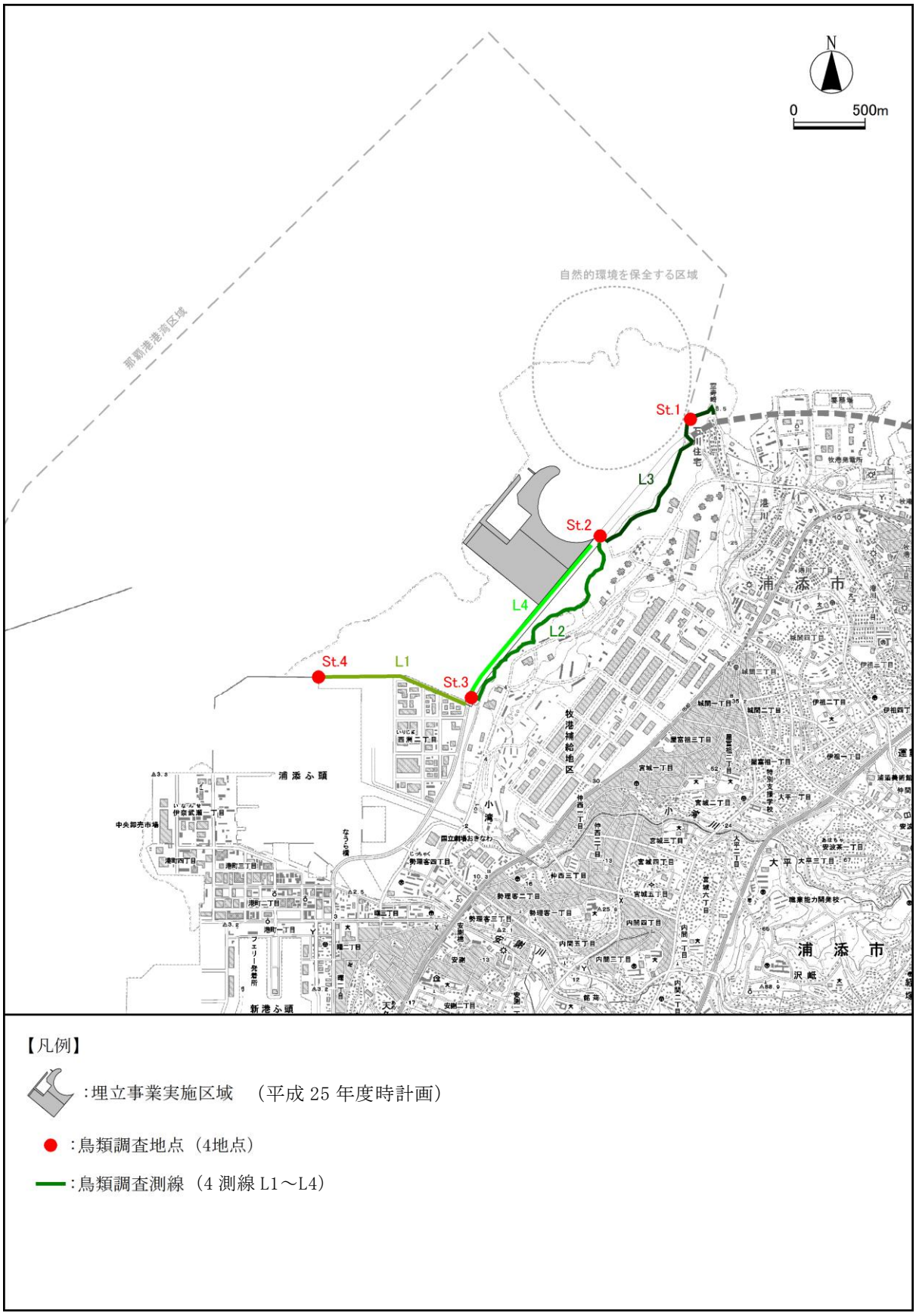


図 3.2.59(1)　既存の現地調査地点及び測線（平成 25 年度、陸域動物（鳥類））

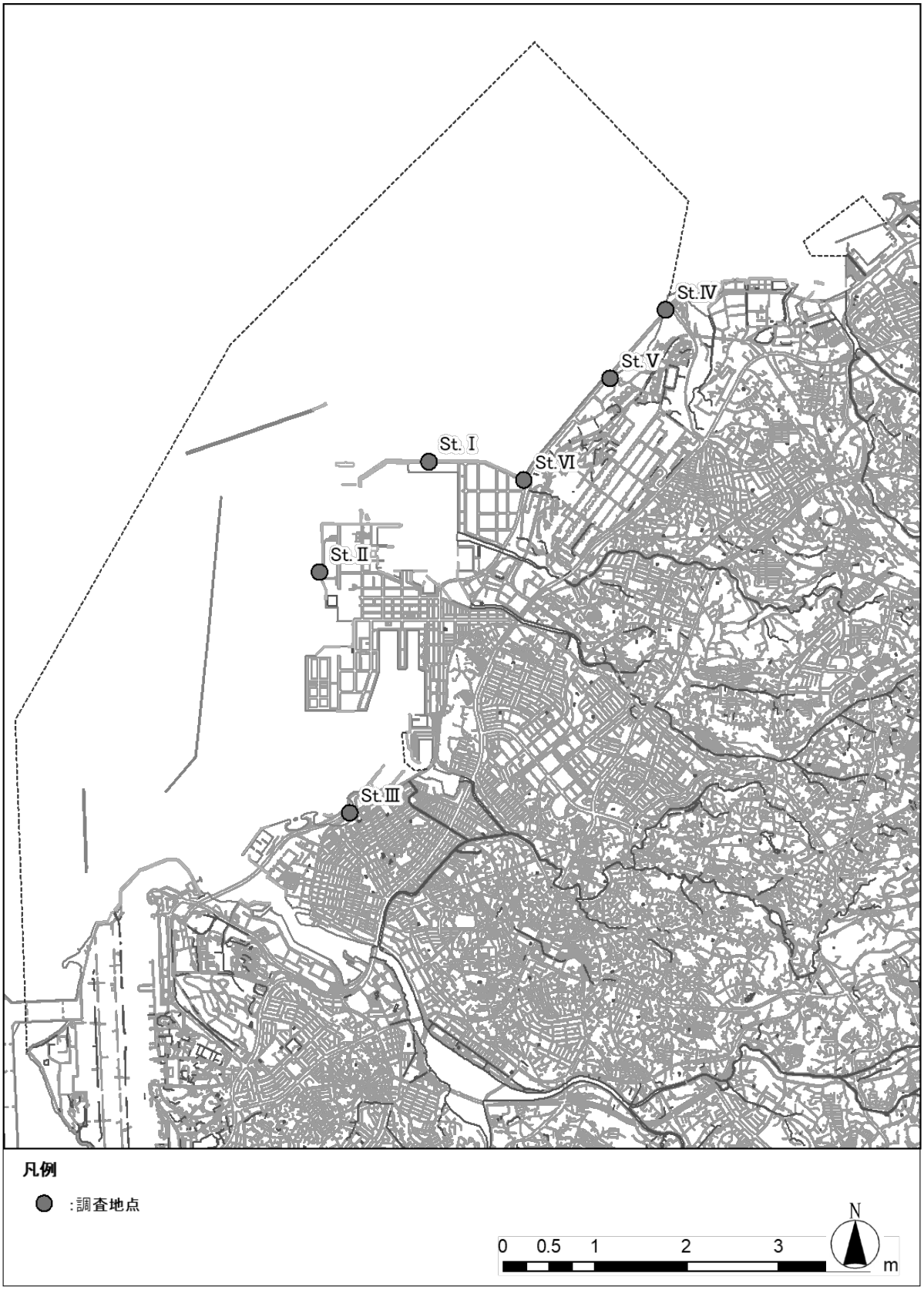


図 3.2.59(2)　既存の現地調査地点及び測線（令和 3 年度、陸域動物（鳥類））



図 3.2.60　既存の現地調査地点及び測線（平成 25 年度、陸域動物（オカヤドカリ類））

(b) 調査結果（平成 25 年度）

a) 哺乳類

平成 25 年度における哺乳類の調査結果概要は、表 3.2.141 に示すとおりであり、確認された哺乳類は 3 目 3 科 5 種である。

表 3.2.141　哺乳類の調査結果概要

調査地域 / 項目	埋立事業実施区域北側	埋立事業実施区域南側	全体
確認種数	2 科 2 種	3 科 4 種	3 科 5 種
主な確認種	ワタセジネズミ ハツカネズミ	ワタセジネズミ ジャコウネズミ オキナワハツカネズミ ノネコ	

注：1.埋立事業実施区域は平成 25 年度時計画を示す。
2.「埋立事業実施区域北側」は調査測線（L3）及び調査地点（St.1、St.2）の調査結果を、「埋立事業実施区域南側」は調査測線（L1、L2、L4）及び調査地点（St.3）の調査結果を整理している。

a) 両生類

平成 25 年度における両生類の調査結果概要は、表 3.2.142 に示すとおりであり、確認された両生類は 1 目 3 科 4 種である。

表 3.2.142　両生類の調査結果概要

調査地域 / 項目	埋立事業実施区域北側	埋立事業実施区域南側	全体
確認種数	0	3 科 4 種	3 科 4 種
主な確認種	なし	ヒメアマガエル ヌマガエル リュウキュウカジカガエル シロアゴガエル	

注：1.埋立事業実施区域は平成 25 年度時計画を示す。
2.「埋立事業実施区域北側」は調査測線（L3）及び調査地点（St.1、St.2）の調査結果を、「埋立事業実施区域南側」は調査測線（L1、L2、L4）及び調査地点（St.3）の調査結果を整理している。

b) 爬虫類

平成 25 年度における爬虫類の調査結果概要は、表 3.2.143 に示すとおりであり、確認された爬虫類は 1 目 3 科 4 種であった。

表 3.2.143　爬虫類の調査結果概要

調査地域 / 項目	埋立事業実施区域北側	埋立事業実施区域南側	全体
確認種数	3 科 4 種	1 科 1 種	3 科 4 種
主な確認種	ホオグロヤモリ ミナミヤモリ メクラヘビ オキナワトカゲ	ホオグロヤモリ	

注：1.埋立事業実施区域は平成 25 年度時計画を示す。
2.「埋立事業実施区域北側」は調査測線（L3）及び調査地点（St.1、St.2）の調査結果を、「埋立事業実施区域南側」は調査測線（L1、L2、L4）及び調査地点（St.3）の調査結果を整理している。

c）鳥類

平成 25 年度における鳥類の出現種一覧は、表 3.2.144 に示すとおりであり、確認された鳥類は 6 目 18 科 41 種であった。

表 3.2.144　出現種一覧（鳥類）

越　冬　期：平成 26 年 2 月 5,6 日
春の渡り期：平成 26 年 4 月 7,8 日
繁殖期／春：平成 26 年 5 月 7,8 日
繁殖期／夏：平成 26 年 8 月 13,14 日
秋の渡り期：平成 26 年 11 月 6,7 日

No.	目名	科名	和名	学名	越冬期	春の渡り期	繁殖期/春	繁殖期/夏	秋の渡り期
1	ﾊﾄ	ﾊﾄ	ｷｼﾞﾊﾞﾄ	*Streptopelia orientalis*	●	●	●	●	●
2			ｶﾜﾗﾊﾞﾄ	*Columba livia*	●				
3	ﾍﾟﾘｶﾝ	ｻｷﾞ	ｻｻｺﾞｲ	*Butorides striata*			●		
4			ｱﾏｻｷﾞ	*Bubulcus ibis*			●		
5			ｱｵｻｷﾞ	*Ardea cinerea*	●	●	●		
6			ﾀﾞｲｻｷﾞ	*Ardea alba*	●	●			●
7			ｸﾛｻｷﾞ	*Egretta sacra*	●	●	●	●	●
8	ﾁﾄﾞﾘ	ﾁﾄﾞﾘ	ﾑﾅｸﾞﾛ	*Pluvialis fulva*	●	●	●	●	●
9			ﾀﾞｲｾﾞﾝ	*Pluvialis squatarola*		●		●	●
10			ｼﾛﾁﾄﾞﾘ	*Charadrius alexandrinus*	●	●	●	●	●
11			ﾒﾀﾞｲﾁﾄﾞﾘ	*Charadrius mongolus*	●	●		●	●
12		ｼｷﾞ	ﾀｼｷﾞ	*Gallinago gallinago*			●		
13			ｵｵｿﾘﾊｼｼｷﾞ	*Limosa lapponica*		●			
14			ﾁｭｳｼｬｸｼｷﾞ	*Numenius phaeopus*					●
15			ｱｵｱｼｼｷﾞ	*Tringa nebularia*	●	●	●	●	●
16			ｷｱｼｼｷﾞ	*Heteroscelus brevipes*	●	●	●	●	●
17			ｿﾘﾊｼｼｷﾞ	*Xenus cinereus*			●		
18			ｲｿｼｷﾞ	*Actitis hypoleucos*	●	●	●	●	●
19			ｷｮｳｼﾞｮｼｷﾞ	*Arenaria interpres*	●	●	●	●	●
20			ﾄｳﾈﾝ	*Calidris ruficollis*	●	●			
21		ｶﾓﾒ	ｵﾆｱｼﾞｻｼ	*Sterna caspia*	●				
22			ｺｱｼﾞｻｼ	*Sterna albifrons*			●	●	
23			ﾍﾞﾆｱｼﾞｻｼ	*Sterna dougallii*				●	
24			ｸﾛﾊﾗｱｼﾞｻｼ	*Chlidonias hybrida*			●		
25	ﾀｶ	ﾐｻｺﾞ	ﾐｻｺﾞ	*Pandion haliaetus*	●	●			●
26		ﾀｶ	ｻｼﾊﾞ	*Butastur indicus*					●
27	ﾊﾔﾌﾞｻ	ﾊﾔﾌﾞｻ	ﾁｮｳｹﾞﾝﾎﾞｳ	*Falco tinnunculus*	●				●
28			ﾊﾔﾌﾞｻ	*Falco peregrinus*			●		
29	ｽｽﾞﾒ	ﾓｽﾞ	ｼﾏｱｶﾓｽﾞ	*Lanius cristatus lucionensis*	●				
30		ﾂﾊﾞﾒ	ﾘｭｳｷｭｳﾂﾊﾞﾒ	*Hirundo tahitica*	●	●	●	●	●
31		ﾋﾖﾄﾞﾘ	ｼﾛｶﾞｼﾗ	*Pycnonotus sinensis*	●	●	●	●	●
32			ﾋﾖﾄﾞﾘ	*Hypsipetes amaurotis*	●	●	●	●	●
33		ｳｸﾞｲｽ	ｳｸﾞｲｽ	*Cettia diphone*	●	●			●
34		ﾒｼﾞﾛ	ﾒｼﾞﾛ	*Zosterops japonicus*	●	●	●	●	●
35		ｾｯｶ	ｾｯｶ	*Cisticola juncidis*	●	●	●	●	●
36		ﾋﾀｷ	ｼﾛﾊﾗ	*Turdus pallidus*	●				
37			ｲｿﾋﾖﾄﾞﾘ	*Monticola solitarius*	●	●	●	●	●
38		ｽｽﾞﾒ	ｽｽﾞﾒ	*Passer montanus*	●	●	●	●	●
39		ｾｷﾚｲ	ｷｾｷﾚｲ	*Motacilla cinerea*	●	●	●		
40			ﾊｸｾｷﾚｲ	*Motacilla alba*	●	●		●	●
41		ｶｴﾃﾞﾁｮｳ	ｼﾏｷﾝﾊﾟﾗ	*Lonchura punctulata*	●	●			
合計	6目18科41種				29種	26種	24種	20種	24種

注：1.●は出現を示す。
　　2.渡りの区分は「改訂　沖縄の野鳥」（沖縄野鳥研究会，2010）を参考にした。
出典：＜渡り区分について＞（「改訂　沖縄の野鳥」（沖縄野鳥研究会，2010）より）

d) 昆虫類

平成 25 年度における昆虫類の調査結果概要は、表 3.2.145 に示すとおりであり、確認された昆虫類は 14 目 133 科 334 種である。

表 3.2.145　昆虫類の調査結果概要

調査地域 / 項目	埋立事業実施区域北側	埋立事業実施区域南側	全体
確認種数	5 科 5 種	5 科 5 種	133 科 334 種
主な確認種	フタテンコバネゴキブリ タイワンツチイナゴ ハイイロイボサシガメ オキナワシロヘリハンミョウ ウラナミシジミ	タイワンツチイナゴ カンシャコバネナガカメムシ コガタノゲンゴロウ セイヨウミツバチ ウラナミシジミ	

注：1.埋立事業実施区域は平成 25 年度時計画を示す。
2.「埋立事業実施区域北側」は調査測線（L3）及び調査地点（St.1、St.2）の調査結果を、「埋立事業実施区域南側」は調査測線（L1、L2、L4）及び調査地点（St.3）の調査結果を整理している。

e) 陸生貝類

平成 25 年度における陸産貝類の調査結果概要は、表 3.2.146 に示すとおりであり、確認された陸生貝類は 2 目 4 科 6 種である。

表 3.2.146　陸産貝類の調査結果概要

調査地域 / 項目	埋立事業実施区域北側	埋立事業実施区域南側	全体
確認種数	3 科 4 種	4 科 6 種	4 科 6 種
主な確認種	クビキレガイ リュウキュウオカモノアラガイ パンダナマイマイ オキナワウスカワマイマイ	オナジマイマイ パンダナマイマイ オキナワウスカワマイマイ リュウキュウオカモノアラガイ オオオカチョウジガイ クビキレガイ	

注：1.埋立事業実施区域は平成 25 年度時計画を示す。
2.「埋立事業実施区域北側」は調査測線（L3）及び調査地点（St.1、St.2）の調査結果を、「埋立事業実施区域南側」は調査測線（L1、L2、L4）及び調査地点（St.3）の調査結果を整理している。

f) オカヤドカリ類

平成 25 年度におけるオカヤドカリ類の調査結果概要は、表 3.2.147 に示すとおりであり、確認されたオカヤドカリ類は 1 目 1 科 4 種である。

表 3.2.147　オカヤドカリ類の調査結果概要

調査地域 / 項目	埋立事業実施区域北側	埋立事業実施区域南側	全体
確認種数	1 科 3 種	1 科 4 種	1 科 4 種
主な確認種	オカヤドカリ ムラサキオカヤドカリ ナキオカヤドカリ	オオナキオカヤドカリ オカヤドカリ ムラサキオカヤドカリ ナキオカヤドカリ	

注：1.埋立事業実施区域は平成 25 年度時計画を示す。
2.「埋立事業実施区域北側」は調査測線（L3）及び調査地点（St.1、St.2）の調査結果を、「埋立事業実施区域南側」は調査測線（L1、L2、L4）及び調査地点（St.3）の調査結果を整理している。

(c) 調査結果（令和 3 年度）

a) 鳥類

令和 3 年度における鳥類の調査結果は、表 3.2.148 に示すとおりであり、確認された鳥類は 7 目 21 科 49 種である。

表 3.2.148 鳥類調査結果

夏季①：令和 3 年 8 月 24 日
秋季 ：令和 3 年 10 月 21 日
冬季 ：令和 4 年 1 月 19 日
春季 ：令和 4 年 4 月 15 日
夏季②：令和 4 年 7 月 11 日

No.	目	科	種		令和3年度			令和4年度	
			和名	学名	夏季	秋季	冬季	春季	夏季
1	ハト	ハト	キジバト	*Streptopelia orientalis*	○	○	○	○	○
2	カツオドリ	ウ	カワウ	*Phalacrocorax carbo*			○		
3	ペリカン	サギ	ササゴイ	*Butorides striata*				○	
4			アオサギ	*Ardea cinerea*		○		○	○
5			ダイサギ	*Ardea alba*	○	○	○	○	
6			チュウサギ	*Egretta intermedia*					○
7			コサギ	*Egretta garzetta*		○		○	○
8			クロサギ	*Egretta sacra*	○	○	○	○	○
9	チドリ	チドリ	ムナグロ	*Pluvialis fulva*		○	○	○	
10			ダイゼン	*Pluvialis squatarola*	○	○	○		
11			シロチドリ	*Charadrius alexandrinus*	○	○	○	○	○
12			メダイチドリ	*Charadrius mongolus*		○	○	○	
13		シギ	オオソリハシシギ	*Limosa lapponica*	○				
14			チュウシャクシギ	*Numenius phaeopus*	○	○			○
15			ダイシャクシギ	*Numenius arquata*	○	○			
16			アカアシシギ	*Tringa totanus*	○				
17			コアオアシシギ	*Tringa stagnatilis*		○			
18			アオアシシギ	*Tringa nebularia*	○	○		○	
19			キアシシギ	*Heteroscelus brevipes*	○	○	○	○	○
20			イソシギ	*Actitis hypoleucos*	○	○	○	○	○
21			キョウジョシギ	*Arenaria interpres*	○	○	○		
22			ハマシギ	*Calidris alpina*		○	○		
23		カモメ	セグロカモメ	*Larus argentatus*			○		
24			コアジサシ	*Sterna albifrons*					○
25			ベニアジサシ	*Sterna dougallii*					○
26			エリグロアジサシ	*Sterna sumatrana*					○
27			クロハラアジサシ	*Chlidonias hybrida*		○			
28	タカ	ミサゴ	ミサゴ	*Pandion haliaetus*	○	○	○	○	
29		タカ	サシバ	*Butastur indicus*		○	○	○	
30	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	*Alcedo atthis*		○	○		
31	スズメ	カラス	ハシブトガラス	*Corvus macrorhynchos*	○	○	○	○	
32		シジュウカラ	シジュウカラ	*Parus minor*			○	○	
33		ツバメ	ツバメ	*Hirundo rustica*		○			
34			リュウキュウツバメ	*Hirundo tahitica*	○	○	○	○	
35		ヒヨドリ	シロガシラ	*Pycnonotus sinensis*	○	○	○	○	○
36			ヒヨドリ	*Hypsipetes amaurotis*	○	○	○	○	○
37		ウグイス	ウグイス	*Cettia diphone*			○		
38		メジロ	メジロ	*Zosterops japonicus*	○	○	○	○	○
39		セッカ	セッカ	*Cisticola juncidis*	○	○		○	○
40		ムクドリ	ムクドリ	*Spodiopsar cineraceus*			○	○	
41		ヒタキ	シロハラ	*Turdus pallidus*			○		
42			ツグミ	*Turdus naumanni*			○		
43			ノゴマ	*Luscinia calliope*			○		
44			イソヒヨドリ	*Monticola solitarius*	○	○	○	○	○
45		スズメ	スズメ	*Passer montanus*	○	○	○	○	○
46		セキレイ	キセキレイ	*Motacilla cinerea*			○		
47			ハクセキレイ	*Motacilla alba*		○	○		
48	ハト	ハト	カワラバト(ドバト)	*Columba livia*	○	○	○	○	○
49	スズメ	カエデチョウ	シマキンパラ	*Lonchura punctulata*	○	○			

注：1. 水鳥として扱われる種を灰色掛けで表した。
2. 令和 3 年度の調査結果は「令和 3 年度那覇港港湾計画環境調査業務委託」より引用した。

(d) 重要な種の出現状況

平成 25 年度に確認された重要な種は表 3.2.149 に、令和 3 年度に確認された重要な種は表 3.2.150 に示すとおりである。

表 3.2.149(1)　重要な種一覧（哺乳類、平成 25 年度）

No.	目名	科名	和名	調査時期				選定基準			
				冬季	春季	夏季	秋季	天然記念物①	種の保存法②	環境省RL③	沖縄県RDB④
1	ﾓｸﾞﾗ目	ﾄｶﾞﾘﾈｽﾞﾐ科	ﾜﾀｾｼﾞﾈｽﾞﾐ	●		●	●				準絶滅危惧
2			ｼﾞｬｺｳﾈｽﾞﾐ	●		●	●				情報不足
3	ﾈｽﾞﾐ目	ﾈｽﾞﾐ科	ｵｷﾅﾜﾊﾂｶﾈｽﾞﾐ				●				情報不足
合計	2目	3科	3種	2種	0種	2種	3種	0種	0種	0種	3種

表 3.2.149(2)　重要な種一覧（鳥類、平成 25 年度）

No.	目名	科名	和名	調査時期					選定基準			
				越冬期	春の渡り期	繁殖期/春	繁殖期/夏	秋の渡り期	天然記念物①	種の保存法②	環境省RL③	沖縄県RDB④
1	ﾁﾄﾞﾘ	ﾁﾄﾞﾘ	ﾑﾅｸﾞﾛ	●	●	●	●	●			絶滅危惧Ⅱ類	
2			ｼﾛﾁﾄﾞﾘ	●	●	●	●	●			絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
3			ﾒﾀﾞｲﾁﾄﾞﾘ	●	●		●	●		国際希少		
4		ｼｷﾞ	ｵｵｿﾘﾊｼｼｷﾞ		●					国際希少	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
5			ｷｮｳｼﾞｮｼｷﾞ	●	●	●	●	●				
6			ﾄｳﾈﾝ	●	●							
7		ｶﾓﾒ	ｺｱｼﾞｻｼ			●	●				絶滅危惧ＩＢ類	絶滅危惧Ⅱ類
8			ﾍﾞﾆｱｼﾞｻｼ				●				絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
9	ﾍﾟﾘｶﾝ	ｻｷﾞ	ｻｻｺﾞｲ			●						
10			ｱﾏｻｷﾞ			●						
11	ﾀｶ	ﾐｻｺﾞ	ﾐｻｺﾞ	●	●			●				準絶滅危惧
12		ﾀｶ	ｻｼﾊﾞ					●			絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
13	ﾊﾔﾌﾞｻ	ﾊﾔﾌﾞｻ	ﾊﾔﾌﾞｻ			●				国内希少	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
14	ｽｽﾞﾒ	ｳｸﾞｲｽ	ｳｸﾞｲｽ ※1	●	●			●				絶滅危惧ＩＢ類
合計	5目	8科	14種	7種	8種	7種	6種	7種	0種	3種	7種	8種

※1：本調査のウグイスはダイトウウグイスである可能性が否定できないため、暫定的にダイトウウグイスの選定理由を適用した。

表 3.2.149(3)　重要な種一覧（爬虫類、平成 25 年度）

No.	目名	科名	和名	調査時期				選定基準			
				冬季	春季	夏季	秋季	天然記念物①	種の保存法②	環境省RL③	沖縄県RDB④
1	有鱗目	ﾄｶｹﾞ科	ｵｷﾅﾜﾄｶｹﾞ			●				準絶滅危惧	絶滅危惧II類
合計	1目	1科	1種	0種	0種	1種	0種	0種	0種	1種	1種

表 3.2.149(4)　重要な種一覧（両生類、平成 25 年度）

No.	目名	科名	和名	調査時期				選定基準			
				冬季	春季	夏季	秋季	天然記念物①	種の保存法②	環境省RL③	沖縄県RDB④
－	該当なし	該当なし	該当なし								
合計	0目	0科	0種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	0種

表 3.2.149(5)　重要な種一覧（陸生貝類、平成 25 年度）

No.	目名	科名	和名	調査時期				選定基準			
				冬季	春季	夏季	秋季	天然記念物①	種の保存法②	環境省RL③	沖縄県RDB④
1	柄眼	ｵﾅｼﾞﾏｲﾏｲ	ﾊﾟﾝﾀﾞﾅﾏｲﾏｲ	●	●	●	●				準絶滅危惧
合計	1目	1科	1種	1種	1種	1種	1種	0種	0種	0種	1種

表 3.2.149(6)　重要な種一覧（昆虫類、平成 25 年度）

No.	目名	科名	和名	調査時期				選定基準			
				冬季	春季	夏季	秋季	天然記念物①	種の保存法②	環境省RL③	沖縄県RDB④
1	ｶﾒﾑｼ	ｻｼｶﾞﾒ	ﾊｲｲﾛｲﾎﾞｻｼｶﾞﾒ	●		●	●			準絶滅危惧	
2	ｺｳﾁｭｳ	ﾊﾝﾐｮｳ	ｵｷﾅﾜｼﾛﾍﾘﾊﾝﾐｮｳ							準絶滅危惧	
3		ｹﾞﾝｺﾞﾛｳ	ｺｶﾞﾀﾉｹﾞﾝｺﾞﾛｳ		●	●	●			絶滅危惧Ⅱ類	
4	ﾊﾁ	ｽｽﾞﾒﾊﾞﾁ	ﾔﾏﾄｱｼﾅｶﾞﾊﾞﾁ			●				情報不足	
合計	3目	4科	4種	1種	1種	3種	2種	0種	0種	4種	0種

表 3.2.149(7)　重要な種一覧（オカヤドカリ類、平成 25 年度）

No.	目	科	和名	調査時期				選定基準			
				冬	春	夏	秋	天然記念物①	種の保存法②	環境省RL③	沖縄県RDB④
1	エビ	オカヤドカリ	オオナキオカヤドカリ	●			●	国天		準絶滅危惧	
2			オカヤドカリ	●	●	●		国天			
3			ムラサキオカヤドカリ	●	●	●	●	国天			
4			ナキオカヤドカリ	●	●	●	●	国天			
合計	1目	1科	4種	4種	3種	3種	3種	4種	0種	1種	0種

表 3.2.150　重要な種一覧（鳥類、令和 3 年度）

No.	目	科	種（亜種）	令和3年		令和4年			選定理由			
				夏季	秋季	冬季	春季	夏季	天然記念物①	種の保存法②	環境省RL③	沖縄県RDB④
1	ペリカン	サギ	ササゴイ				○				VU	
2			チュウサギ					○			NT	NT
3			コサギ		○		○	○			VU	
4	チドリ	チドリ	ムナグロ		○	○	○				VU	
5			シロチドリ	○	○	○	○	○			VU	VU
6			メダイチドリ		○	○	○			国際		
7		シギ	オオソリハシシギ	○						国際	VU	VU
8			アカアシシギ	○							CR	VU
9			キョウジョシギ	○	○	○					NT	
10			ハマシギ		○	○					VU	NT
11		カモメ	コアジサシ					○			EN	VU
12			ベニアジサシ					○			VU	VU
13			エリグロアジサシ					○			VU	VU
14	タカ	ミサゴ	ミサゴ	○	○	○	○					NT
15		タカ	サシバ		○	○	○				VU	VU
16	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ		○	○						NT
17	スズメ	ウグイス	ウグイス※1			○					EN	
	5目	8科	17種	5種	9種	9種	7種	6種	0種	2種	14種	11種

※1：ウグイスについては、環境省 RL において亜種ダイトウウグイス（沖縄本島では留鳥）が絶滅危惧 IB 類として指定されている。そのため、ダイトウウグイス以外の亜種の可能性もあるものの、重要種として扱った。

＜重要な種の選定基準＞
注：以下の①～④に該当しているものを「重要な種」として選定した。

①天然記念物：「文化財保護法」（法律第 214 号、昭和 25 年 5 月 30 日）及び「沖縄県文化財保護条例」（条例第 25 号、昭和 47 年 5 月 15 日）により、保護されている種及び亜種

・特天：国指定特別天然記念物　　・国天：国指定天然記念物　　・県天：沖縄県指定天然記念物

②種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（法律第 715 条、平成 4 年 6 月 5 日）において以下の項目に選定される種及び亜種

・国内希少：国内希少野生動植物種　　・国際希少：国際希少野生動植物種

③環境省 RL：「環境省レッドリスト 2020 の公表について」（環境省、令和 2 年 3 月 27 日）に記載されている種及び亜種
：「第 5 次レッドリスト（鳥類及び爬虫類・両生類）の公表について（令和 8 年 3 月公表、環境省）に記載されている種及び亜種

・CR+EN（絶滅危惧Ⅰ類）：絶滅の危機に瀕している種
・CR（絶滅危惧ⅠA 類）：絶滅の危機に瀕している種のうち、ごく近い将来における野生での絶滅の可能性が極めて高いもの
・EN（絶滅危惧ⅠB 類）：絶滅の危機に瀕している種のうち、IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
・VU（絶滅危惧Ⅱ類）：絶滅の危険が増大している種
・NT（準絶滅危惧）：存続基盤が脆弱な種。現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
・DD（情報不足）：評価するだけの情報が不足している種
・LP（絶滅のおそれのある地域個体群）：地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群

④沖縄県 RDB：「沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(レッドデータおきなわ)－動物編－」（沖縄県、平成 29 年）に記載されている種及び亜種

・CR+EN（絶滅危惧Ⅰ類）：沖縄県では絶滅の危機に瀕している種
・CR（絶滅危惧ⅠA 類）：沖縄県ではごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
・EN（絶滅危惧ⅠB 類）：沖縄県ではⅠA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
・VU（絶滅危惧Ⅱ類）：沖縄県では絶滅の危機が増大している種
・NT（準絶滅危惧）：沖縄県では存続基盤が脆弱な種
・DD（情報不足）：沖縄県では評価するだけの情報が不足している種

2）海域生物

（ア）海域植物

ア）文献その他の資料調査

海域植物の状況について、環境省により藻場の調査、那覇港管理組合及び沖縄総合事務局によりカサノリ類の調査が行われている。文献その他の資料調査は、表 3.2.151 に示すとおりである。

なお、関係 3 市により実施されている海域植物の調査に関する文献その他の資料は確認できなかった。

表 3.2.151（1）　文献その他の資料調査（海域植物）

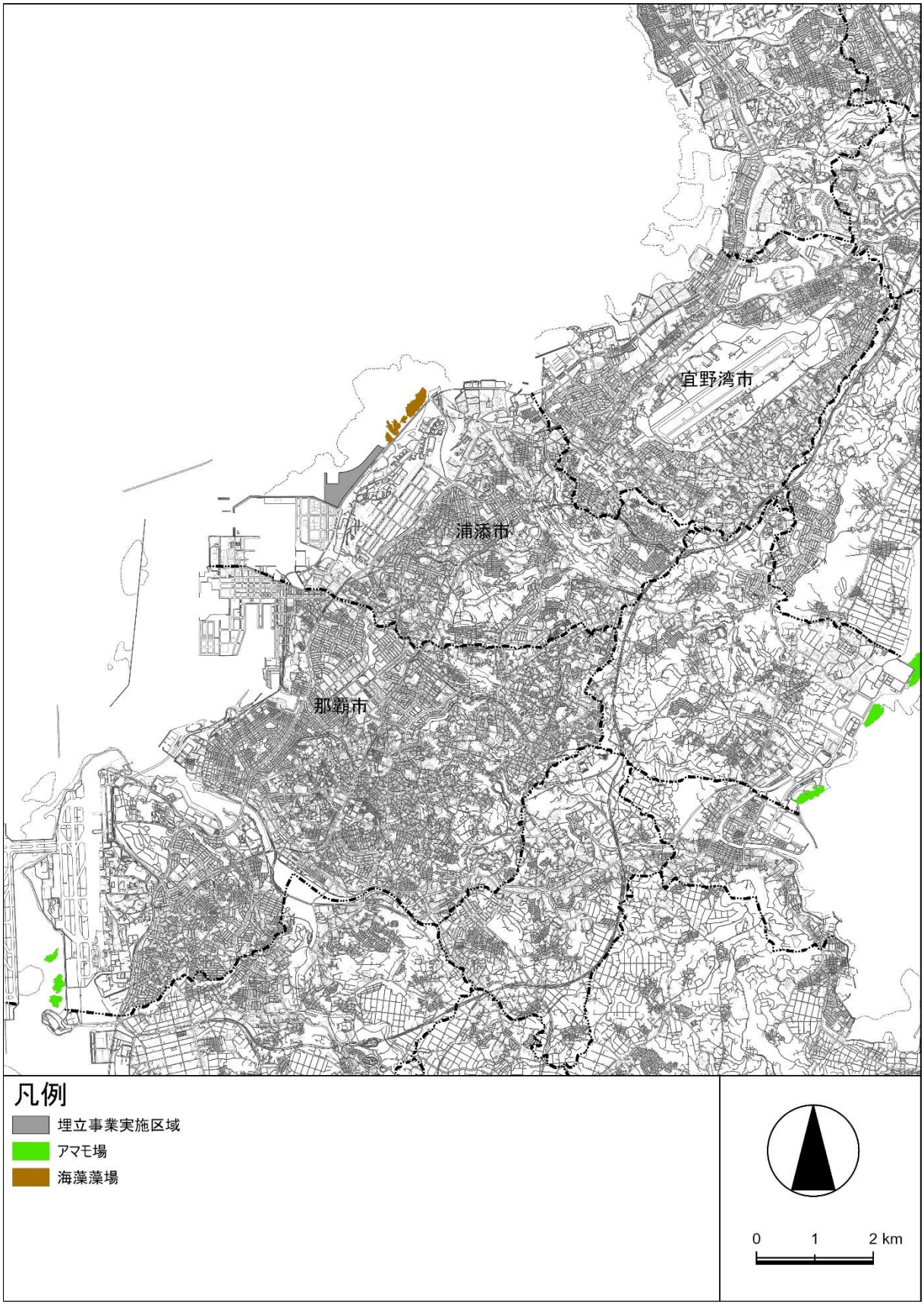
調査項目	藻場の分布状況
実施機関	環境省
報告書名	藻場調査（2018～2020 年度）
調査時期	平成 30 年度～令和 2 年度
調査位置	沖縄島
調査方法	資料調査、ヒアリング調査、現地確認調査

表 3.2.151（2）　文献その他の資料調査（海域植物）

調査項目	カサノリ類の分布状況	カサノリ類の分布状況
実施機関	那覇港管理組合	沖縄総合事務局
報告書名	平成 16 年度那覇港海域環境保全計画調査業務報告書	令和 4 年度那覇空港海藻草類調査業務
調査時期	平成 15，16 年度冬季	令和 4 年度
調査位置	沖縄島	那覇空港前面海域
調査方法	資料調査、ヒアリング調査、現地確認調査	カサノリ類の生育状況調査として、調査範囲内をシュノーケリングや徒歩、潜水目視観察等により、カサノリ類（カサノリ及びホソエガサ）について有無を観察。

(a) 藻場の分布状況

環境省が実施した「藻場調査（2018～2020 年度）」によると、埋立事業実施区域周辺で、海藻藻場の分布が確認されている。藻場分布状況は図 3.2.61 に示すとおりである。



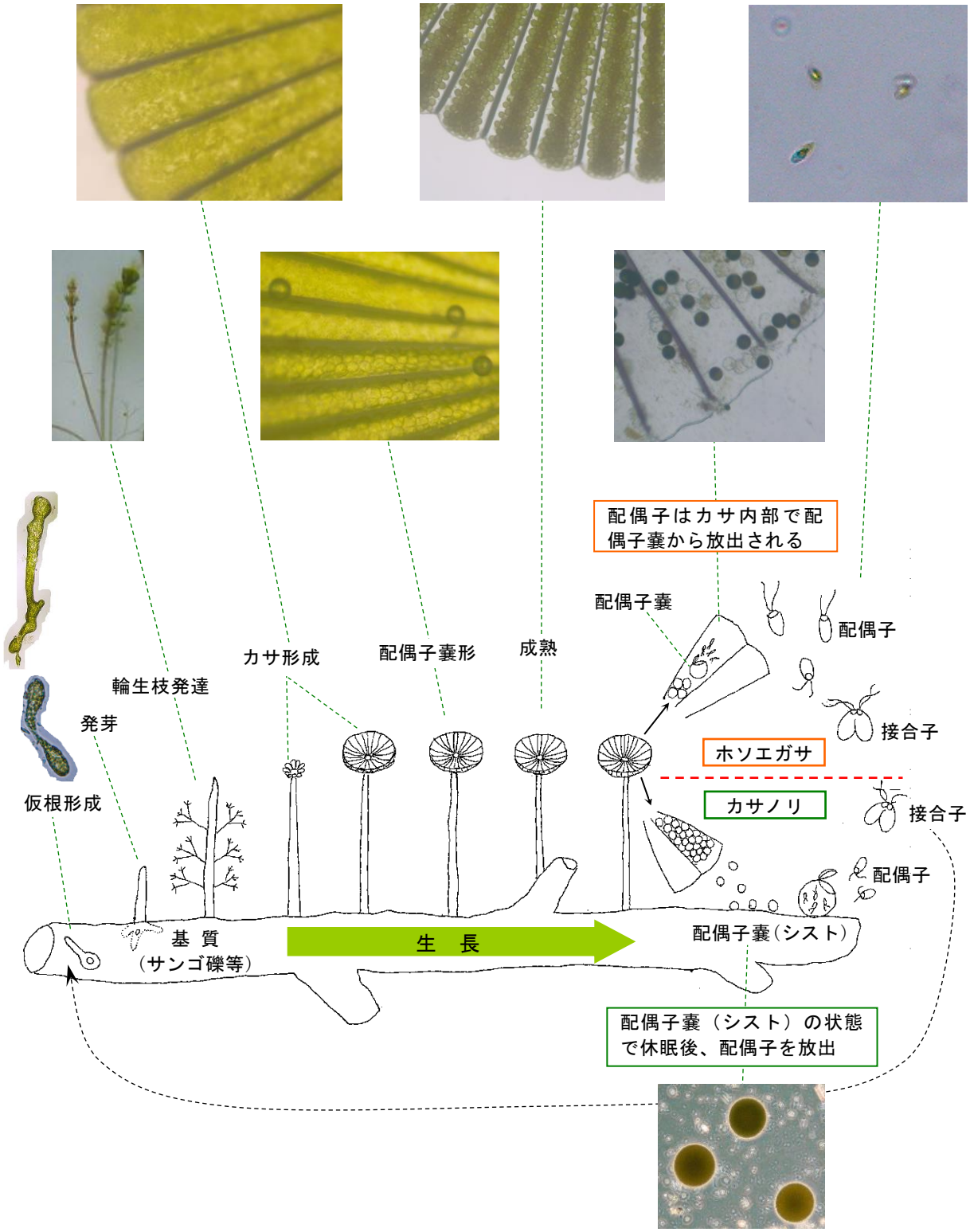
出典：「藻場調査（2018－2020)」（環境省自然環境局生物多様性センターHP-自然環境 web-GIS-より作成）
https://www.biodic.go.jp/kiso/vg/vg_kiso.html

図 3.2.61　藻場分布状況（環境省）

(b) カサノリ類の生活史及び分布状況

a) カサノリ類の生活史

カサノリ類の生活史は既存知見及び室内実験結果等からとりまとめられており、図 3.2.62 に示すとおりである。



出典：「平成 16 年度那覇港海域環境保全計画調査業務報告書」（平成 17 年 8 月、那覇港管理組合）

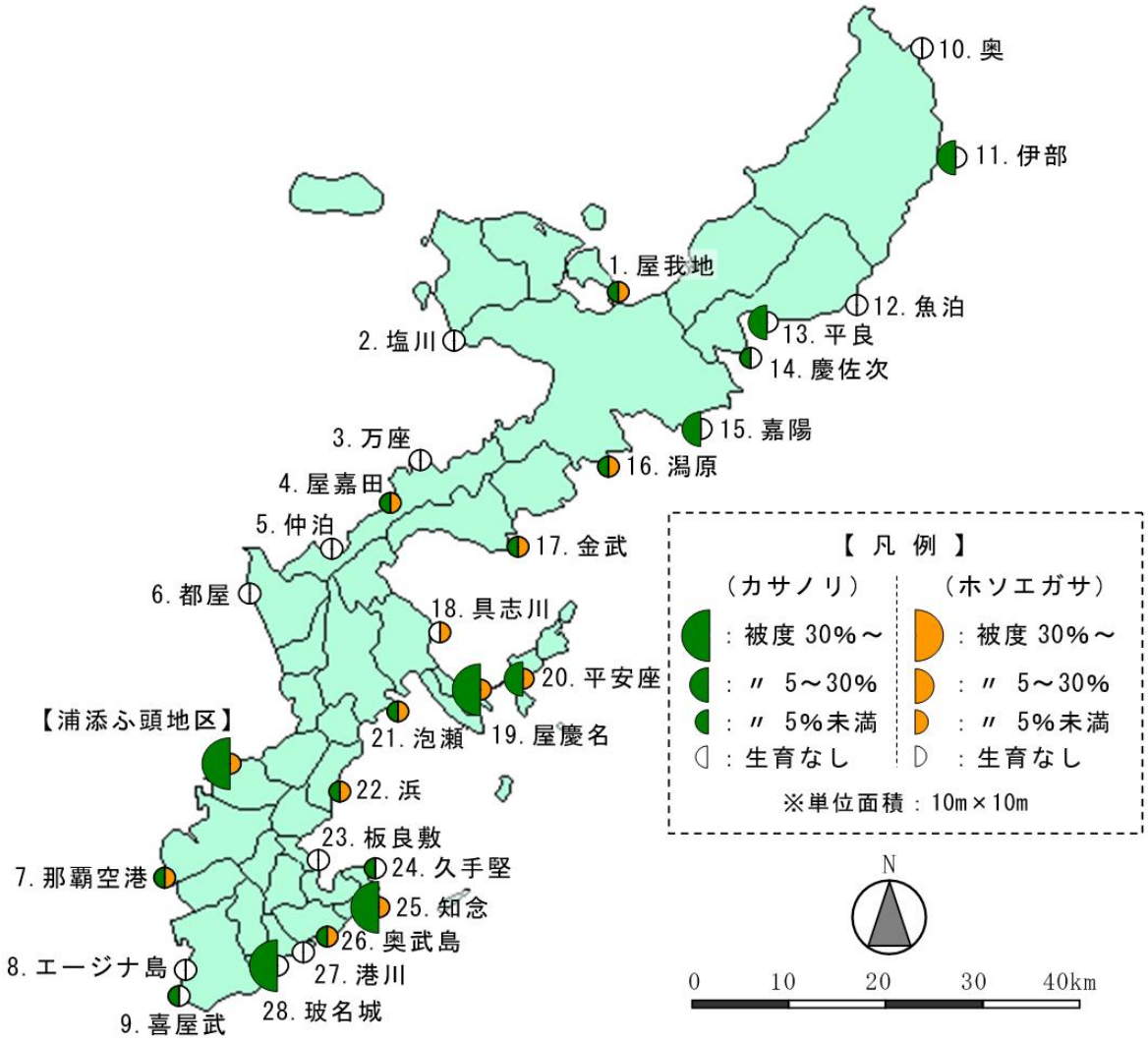
図 3.2.62 カサノリ及びホソエガサの生活史

b) カサノリ類の分布状況

沖縄島におけるカサノリ及びホソエガサの分布状況は図 3.2.63 に、那覇空港海域における令和 4 年度のカサノリ類の分布状況は図 3.2.64 に示すとおりである。

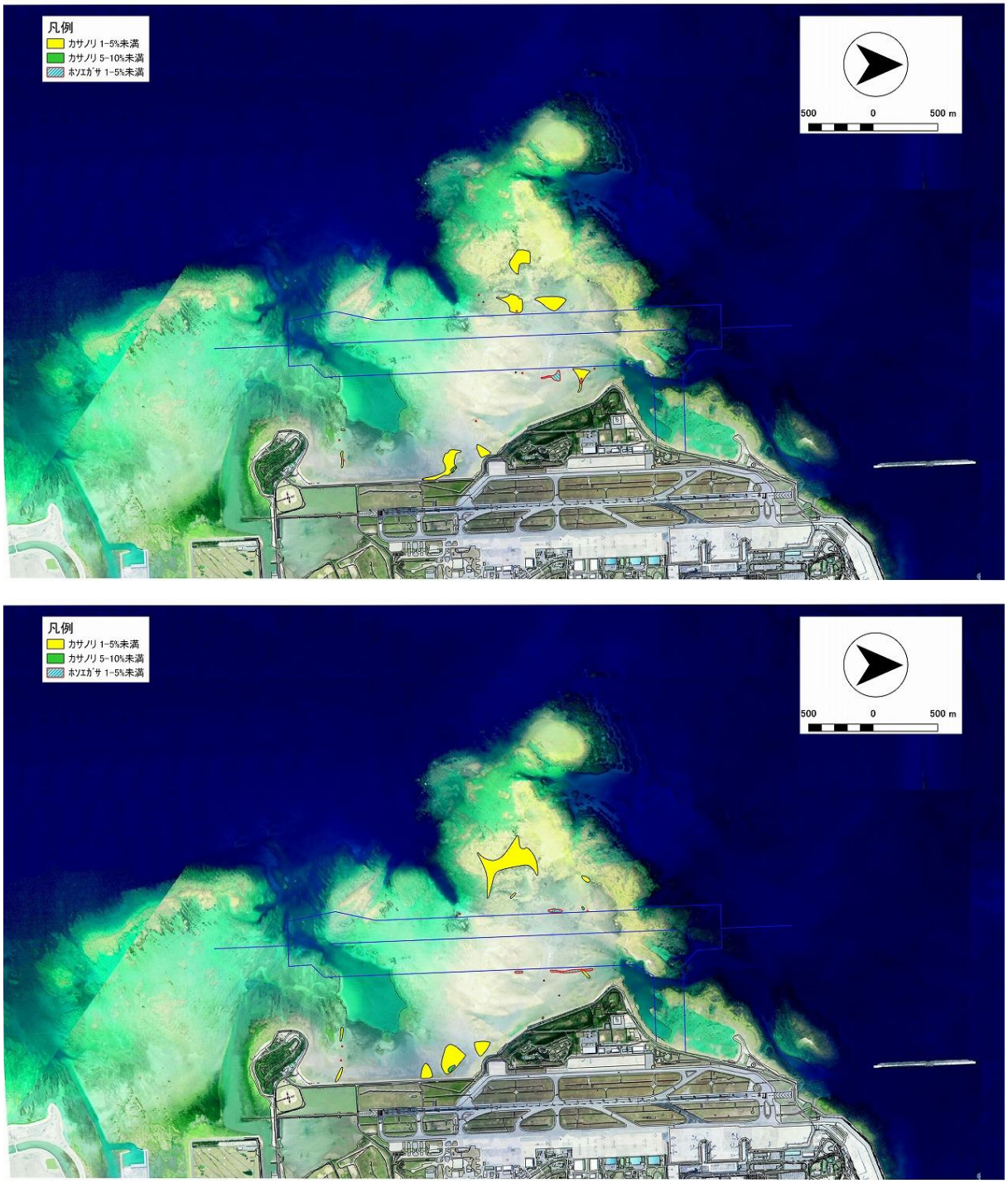
平成 15、16 年度に実施された調査結果によると、沖縄島西海岸中南部では浦添ふ頭地区と那覇空港、喜屋武の 3 か所で生育が確認された。

那覇空港海域では令和 4 年度まで調査が実施されており、令和 4 年度にもカサノリ及びホソエガサが確認された。



注：被度は各調査地点における最大値を示す。
出典：「平成 16 年度那覇港海域環境保全計画調査業務報告書」（平成 17 年 8 月、那覇港管理組合）

図 3.2.63　カサノリ及びホソエガサの分布状況（平成 15,16 年度 冬季）



出典：「令和 4 年度那覇空港海藻草類調査業務」（令和 5 年 3 月、沖縄総合事務局　那覇港湾・空港整備事務所）

図 3.2.64　カサノリ及びホソエガサの生育状況（令和 5 年 2 月、3 月）

イ）既存の現地調査

(a) 調査概要

埋立事業実施区域及びその周辺における海域植物の状況について、植物プランクトン及び海藻草類、カサノリ類の調査が行われている。平成 25 年度及び令和 3 年度における海域植物の調査概要は、表 3.2.152～表 3.2.155 に、調査地点図は図 3.2.65～図 3.2.68 に示すとおりである。

表 3.2.152(1) 植物プランクトンの調査概要（平成 25 年度）

調査項目	植物プランクトンの分布状況
実施機関	浦添市土地開発公社
報告書名	那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査(現地調査)業務委託報告書
調査時期	冬季：平成 26 年 3 月 11 日　春季：平成 26 年 4 月 18 日 夏季：平成 26 年 8 月 16 日　秋季：平成 26 年 10 月 27 日
調査位置	図 3.2.65 (1) に示す 15 地点
調査方法	「海洋調査技術マニュアル」(㈳海洋調査協会) 等に基づき、満潮時付近に、バンドーン型採水器を用いて、各地点の表層（海面下 0.5m 層）で 5L を採水し、現地でホルマリン固定して室内分析のための試料とした。試料は、出現種の同定、細胞数の計数、クロロフィル a 量の測定を行った。

表 3.2.152(2) 植物プランクトンの調査概要（令和 3 年度）

調査項目	植物プランクトンの分布状況
実施機関	那覇港管理組合
報告書名	令和 3 年度那覇港港湾計画環境調査業務委託報告書
調査時期	夏季：令和 3 年 9 月 23 日　冬季：令和 4 年 1 月 21 日
調査位置	図 3.2.65 (2) に示す 13 地点
調査方法	調査船の誘導及び海上測位については、GPS 受信機による電波測位で行った。試料採取にあたっては、動物プランクトンは北原式定量ネットによる鉛直曳き(海底面上 1m～海面)、植物プランクトンはバンドーン型採水器による採水法(採取層は表層(海面下 0.5m)の 1 層)とした。採取試料は、中性ホルマリンで固定し、速やかに同定・計数に供した。

表 3.2.153 潮間帯生物(植物)の調査概要（平成 25 年度）

調査項目	潮間帯生物（植物）の分布状況
実施機関	浦添市土地開発公社
報告書名	那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査(現地調査)業務委託報告書
調査時期	冬季：平成 26 年 2 月 27 日　春季：平成 26 年 4 月 25 日 夏季：平成 26 年 7 月 15 日　秋季：平成 26 年 10 月 8 日
調査位置	図 3.2.66 に示す 4 地点
調査方法	潮間帯に 30 cm×30 cm のコドラートを敷設し、坪刈り（調査地点のすべての生物を定量採取し、種類、湿重量等を調査し、種類組成、現存量等を明らかにする方法）により試料を採取した。採取した試料は実験室に持ち帰り、出現種、湿重量等の分析を行った。

表 3.2.154(1)　海藻草類の調査概要（平成 25 年度）

調査項目	海藻草類（藻場）の分布状況
実施機関	浦添市土地開発公社
報告書名	那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査(現地調査)業務委託報告書
調査時期	●定点調査　冬季：平成 26 年 1 月 24,28～30 日、2 月 17 日 春季：平成 26 年 4 月 9～10 日、5 月 2～3 日 夏季：平成 26 年 7 月 3～4,11,21 日 秋季：平成 26 年 10 月 2,16,25,30 日 ●測線調査　冬季：平成 26 年 2 月 17,24～28 日、3 月 1,16 日 春季：平成 26 年 4 月 11～12,16～19 日 夏季：平成 26 年 7 月 1～2 日、8 月 15,23,24 日 秋季：平成 26 年 10 月 14,16,19,31 日、11 月 1,15～17 日 ●分布調査　冬季：平成 26 年 1 月 29～30 日 春季：平成 26 年 4 月 14,15 日 夏季：平成 26 年 7 月 14,15,25 日 秋季：平成 26 年 10 月 23 日
調査位置	図 3.2.67（1）に示す範囲内
調査方法	●定点調査 潜水目視観察によりコドラート（5m×5m）内の出現種（分類群）や種類別被度の生育状況、分布状況の観察、写真撮影により同定可能なレベルで主な出現種を同定し、種類別被度について 5%間隔で記録を行った。 ●測線調査 測線上を 10m毎に潜水目視観察により、海藻草類の種類、被度を記録するとともに、周辺の主な動物（ウミガメ類など）や食み跡などについても定性的に観察した。 ●分布調査 マンタ法、箱メガネによる観察及びそれらを補完する任意の地点における潜水目視観察により、浦添ふ頭地区のリーフ内及びその周辺における藻場構成種の代表的な出現種とその分布状況について調査を行った。また、調査範囲内における代表点（スポット調査地点）において被度の目視観察及び写真撮影を行った。

表 3.2.154(2)　海藻草類の調査概要（令和 3 年度）

調査項目	海藻草類（藻場）の分布状況
実施機関	那覇港管理組合
報告書名	令和 3 年度那覇港港湾計画環境調査業務委託報告書
調査時期	●分布調査　夏季：令和 3 年 9 月 15,17,20～24 日,10 月 5～8 日 冬季：令和 3 年 12 月 20～21 日,令和 4 年 1 月 5,7,22,27 日,2 月 2,26 日 ●定点調査　夏季：令和 3 年 9 月 7～8,17,23 日,10 月 8 日 冬季：令和 4 年 1 月 19,21,27 日,2 月 2 日
調査位置	図 3.2.67（2）に示す範囲内
調査方法	●分布調査 海面から海底が確認できる浅所では、箱メガネを用いた船上からの目視観察もしくはマンタ法により、海面から海底が確認できない水深帯では、スポットチェック法に準じた手法により調査を行った。 ●定点調査 5m×5m のコドラートを設置し、ダイバーによる潜水目視観察を行い、海藻草類の種類、被度を記録した。

表 3.2.155(1)　カサノリ類の調査概要（平成 25 年度）

調査項目	カサノリ類の分布状況
実施機関	浦添市土地開発公社
報告書名	那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査(現地調査)業務委託報告書
調査時期	●定点調査　冬季：平成 26 年 2 月 11 日 ●分布調査　冬季：平成 26 年 2 月 10,11 日
調査位置	図 3.2.68（1）に示す範囲内
調査方法	●定点調査 潜水目視観察により、コドラート内（2m×2m）におけるカサノリ類について種別被度、株数、個体群の生長段階等について把握した。さらに、狭範囲における詳細調査として、コドラート内（0.5m×0.5m）において、種別被度、株数、個体群の生長段階等について把握した。 ●分布調査 浦添ふ頭地区のリーフ内の調査範囲において、潜水目視観察により、カサノリ類の分布状況、出現種、総被度及び種類別被度を把握し、マッピングを行った。調査結果は、カサノリ類の種別被度を 5%未満、5%以上の 2 区分で記録し、分布図としてとりまとめた。

表 3.2.155(2)　カサノリ類の調査概要（令和 3 年度）

調査項目	カサノリ類の分布状況
実施機関	那覇港管理組合
報告書名	令和 3 年度那覇港港湾計画環境調査業務委託報告書
調査時期	冬季：令和 3 年 12 月 16～17 日、令和 4 年 1 月 14,18 日、2 月 16～17 日
調査位置	図 3.2.68（2）に示す範囲内
調査方法	調査地点の位置については、GPS 受信機による電波測位を用いた。調査範囲において、潜水による水面遊泳法及び徒歩でカサノリ類（カサノリ・ホソエガサ：以下、カサノリ類と記す）の分布状況を把握した。カサノリ類の分布範囲内においては生育状況毎に任意の調査地点を設け、1m×1m コドラート内に生育するカサノリ類の種別被度を 5%間隔で記録した。

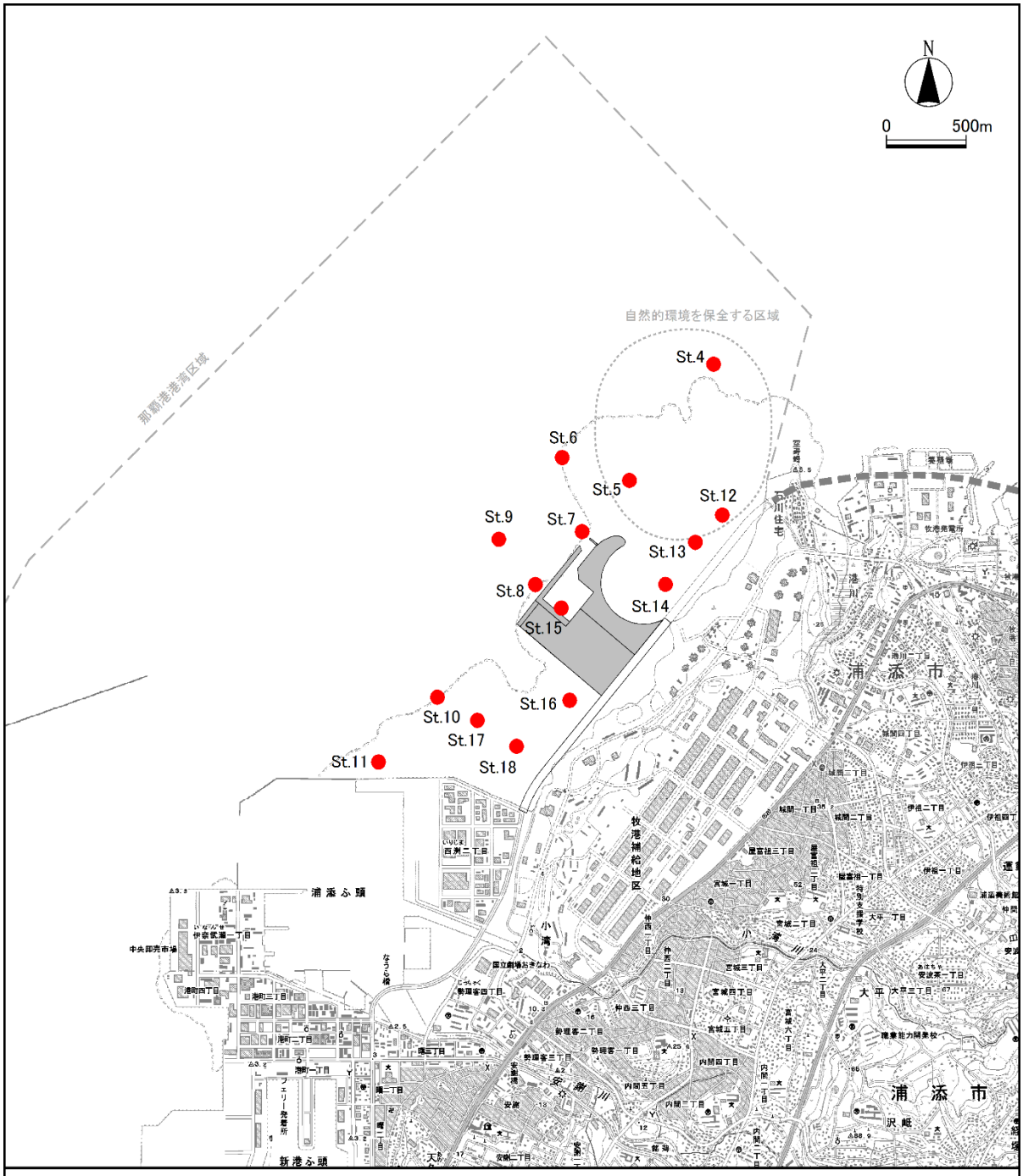


図 3.2.65(1)　既存の現地調査地点（平成 25 年度、植物プランクトン）

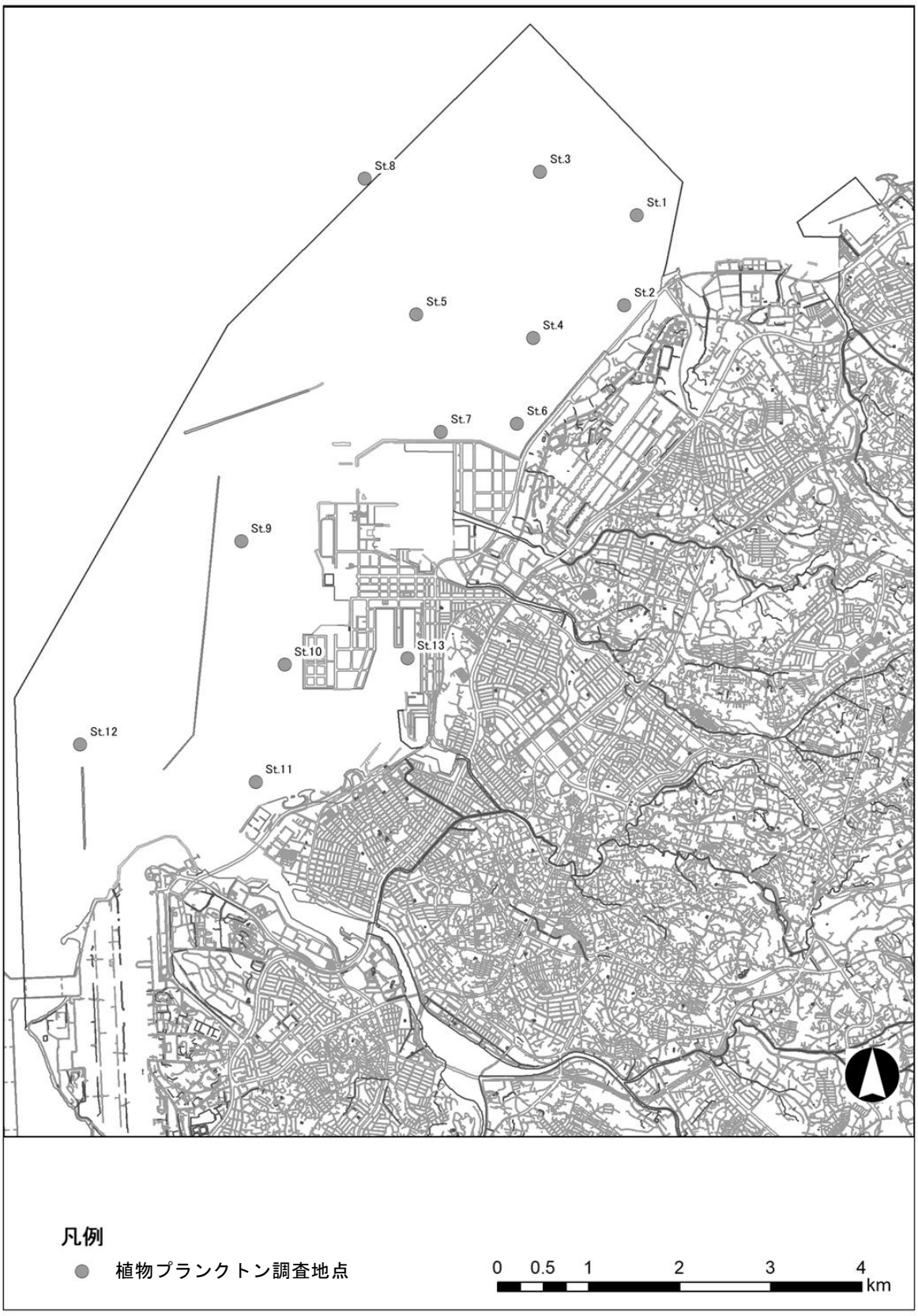


図 3.2.65(2)　既存の現地調査地点（令和 3 年度、植物プランクトン）

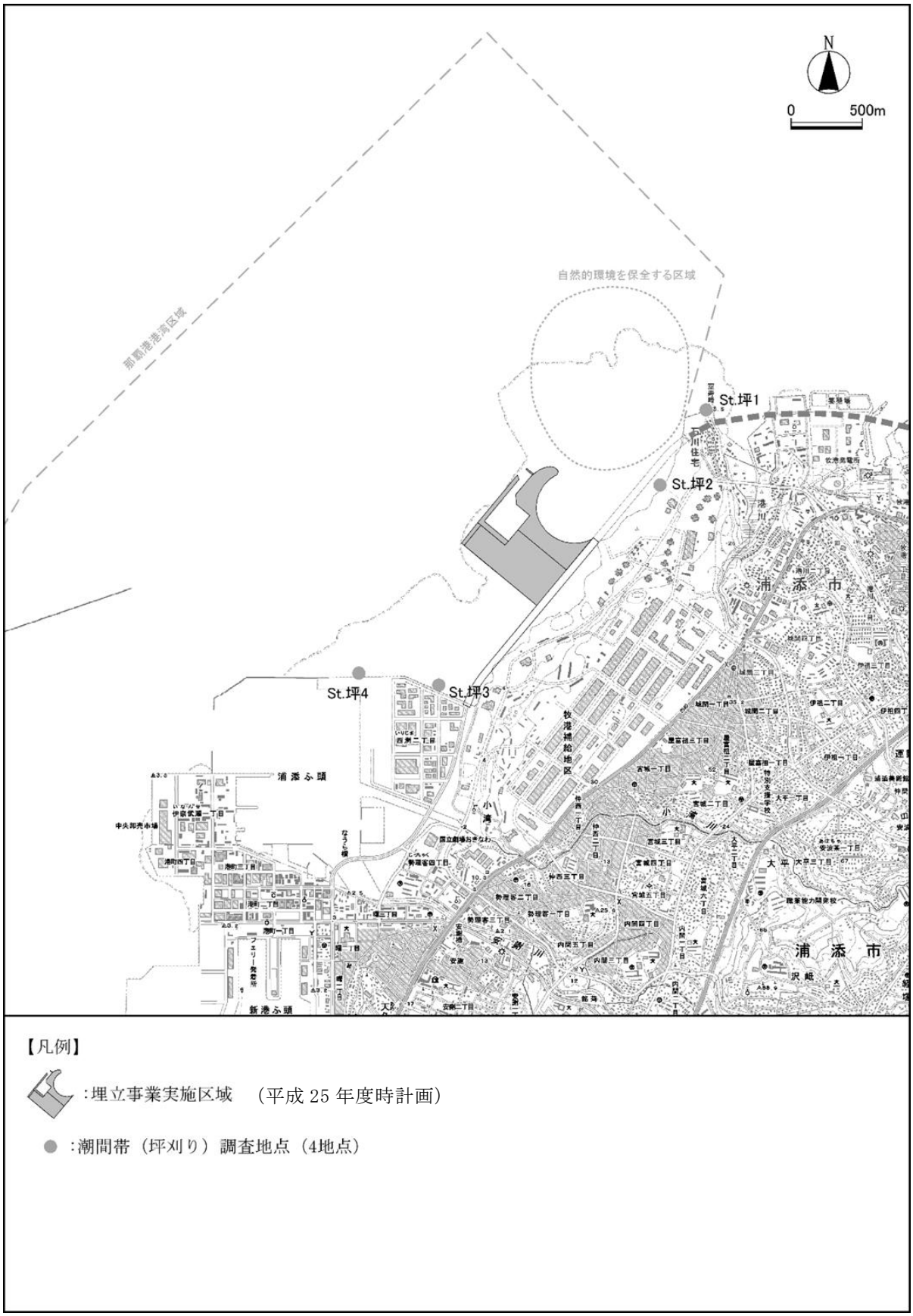


図 3.2.66　既存の現地調査地点（平成 25 年度、潮間帯生物(植物)）

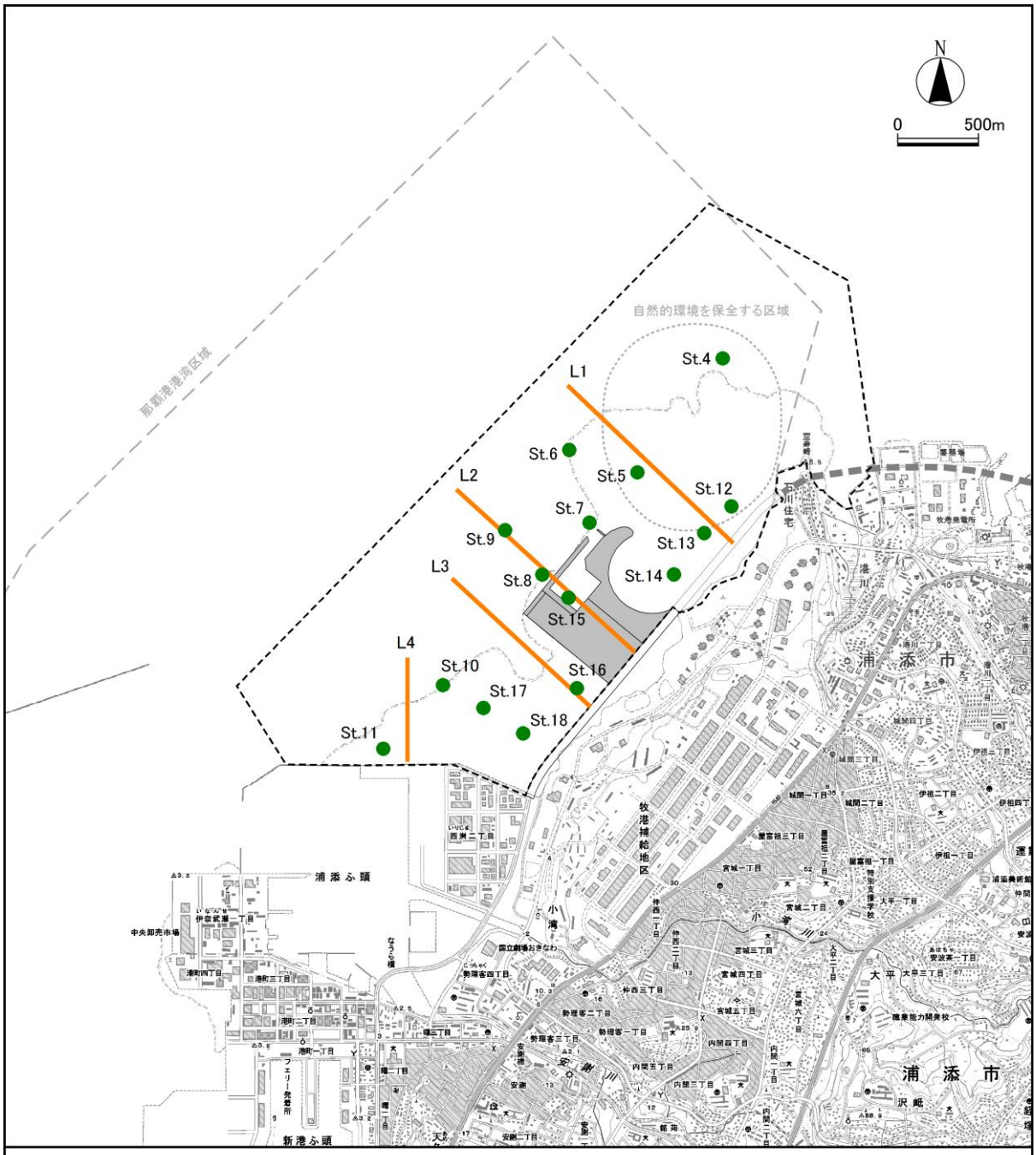


図 3.2.67(1)　既存の現地調査地点、範囲及び測線（平成 25 年度、海藻草類）

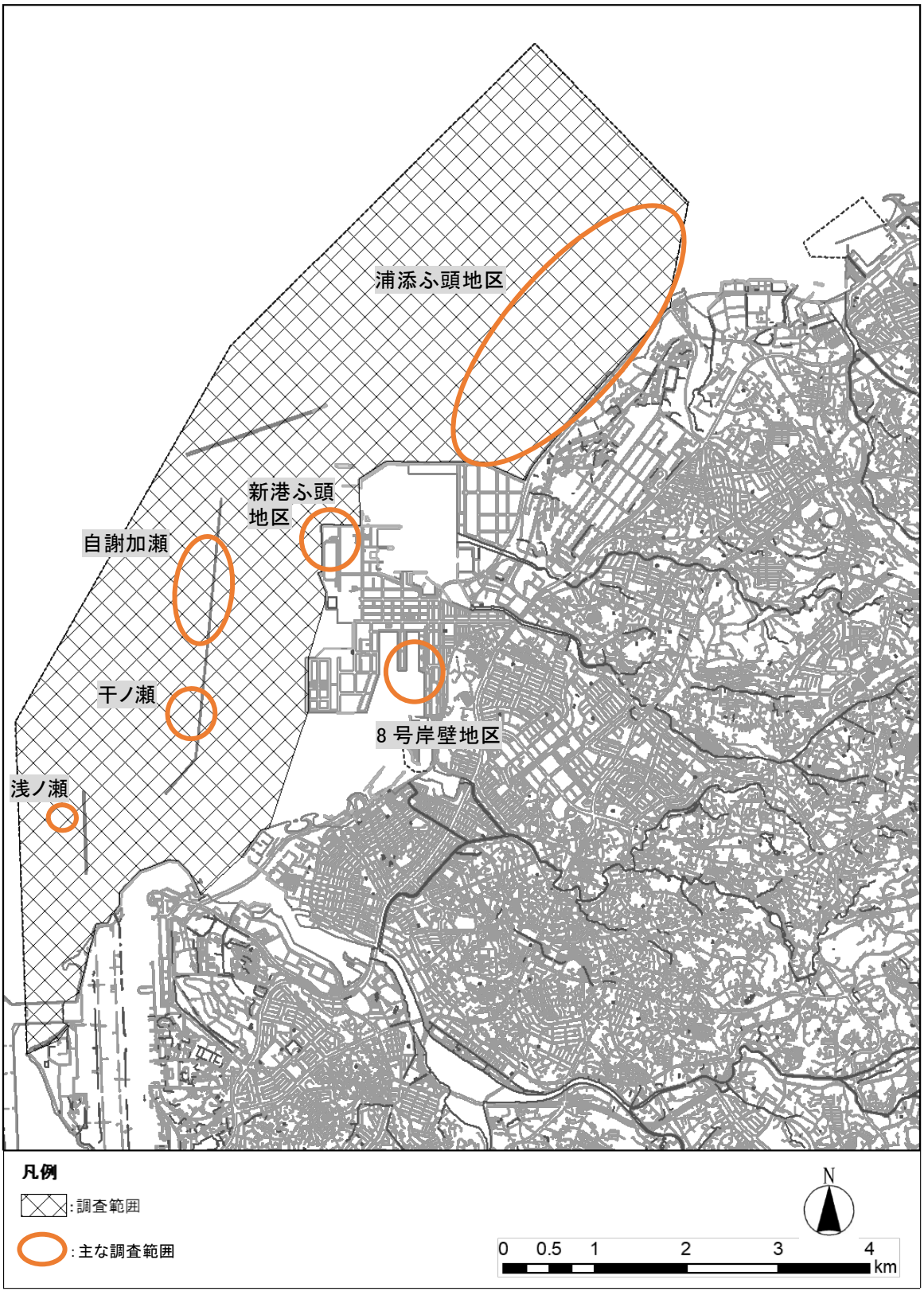
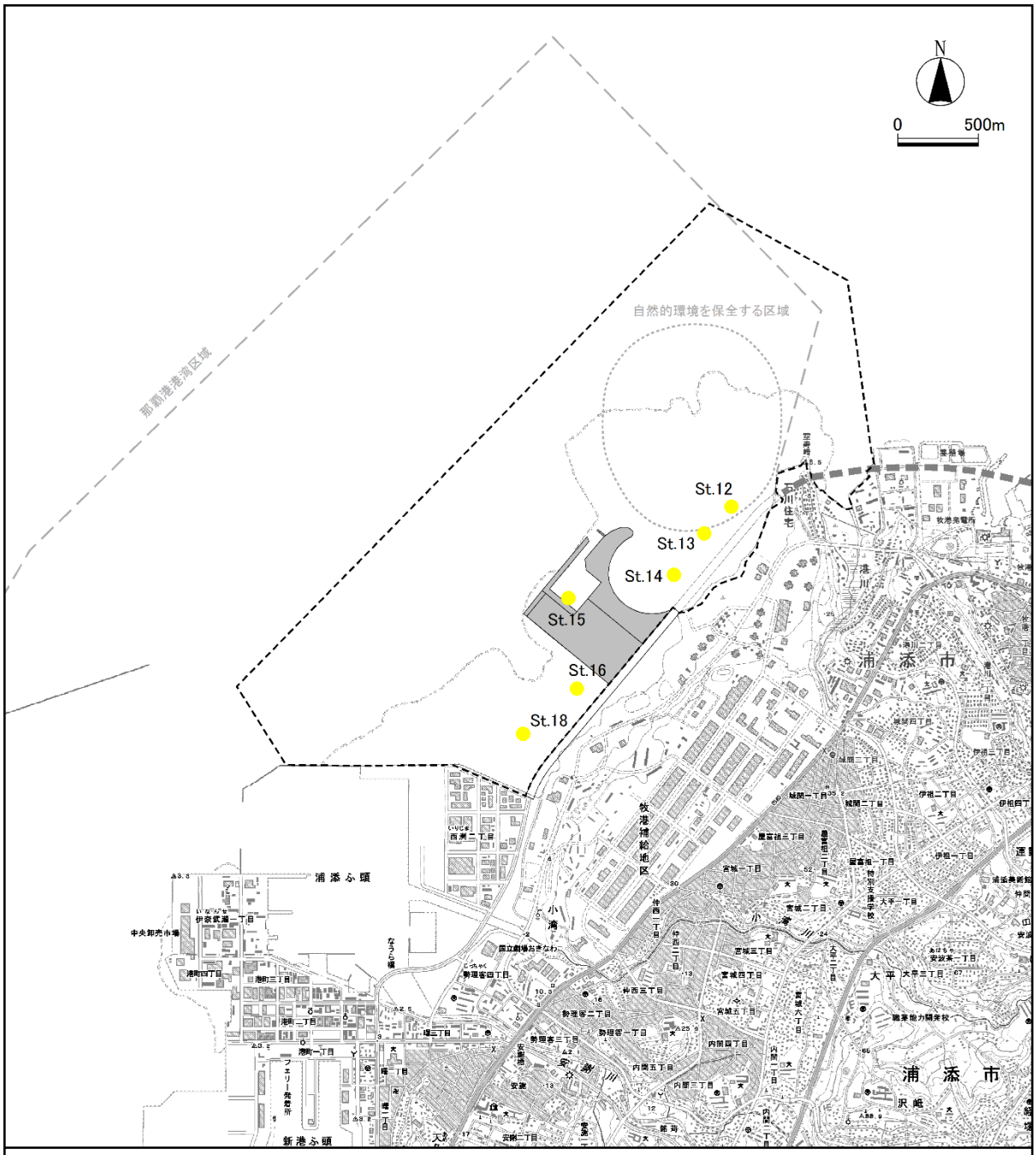


図 3.2.67(2)　海藻草類調査範囲（令和 3 年度）



【凡例】

:埋立事業実施区域　（平成 25 年度時計画）

:カサノリ類定点調査地点（6地点）

:カサノリ類分布調査範囲

※調査地点番号は、他調査との地点配置の関係により、通し番号とはなっていない。

図 3.2.68(1)　カサノリ類調査範囲（平成 25 年度）



図 3.2.68(2)　カサノリ類調査範囲（令和 3 年度）

(b) 調査結果（平成 25 年度）

a) 植物プランクトン

平成 25 年度における植物プランクトンの調査結果概要は、表 3.2.156 に示すとおりである。総出現種類数は、冬季に 55 種類、春季に 69 種類、夏季に 65 種類、秋季に 54 種類であった。細胞数は、冬季に 24,880 細胞/L、春季に 44,253 細胞/L、夏季に 39,067 細胞/L、秋季に 21,780 細胞/L であった。

表 3.2.156　植物プランクトン調査結果概要

項目	調査地点	冬季	春季	夏季	秋季
調査日		平成26年 3月11日	平成26年 4月18日	平成26年 8月16日	平成26年10月27日
沈殿量（mL/L）		0.05	0.02	0.02	0.02
種類数	渦鞭毛藻綱	14	19	15	15
	珪藻綱	34	42	42	30
	その他	7	8	8	9
	合計	55	69	65	54
細胞数（細胞/L）	渦鞭毛藻綱	987	2,853	2,440	4,887
	珪藻綱	12,393	18,527	32,247	7,053
	その他	11,500	22,873	4,380	9,840
	合計	24,880	44,253	39,067	21,780
細胞数組成比（%）	渦鞭毛藻綱	4.0	6.4	6.2	22.4
	珪藻綱	49.8	41.9	82.5	32.4
	その他	46.2	51.7	11.2	45.2
主な出現種と細胞数（細胞/L） （ ）内は組成比率（%）		unidentified flagellates 5,860 (23.6) Pennales 4,540 (18.2) Cryptomonadales 4,273 (17.2) *Nitzschia* sp. 2,747 (11.0)	unidentified flagellates 17,933 (40.5) *Chaetoceros sociale* 6,780 (15.3)	*Skeletonema costatum* sensu lato 16,127 (41.3)	unidentified flagellates 5,180 (23.8)

注：1. 種類数は総出現種類数を示す。
2. 主な出現種は各季の上位 5 種(ただし、組成比が 10%以上)を示した。

b）潮間帯生物（植物）

平成 25 年度における潮間帯生物（植物）の調査結果概要は、表 3.2.157 に示すとおりである。総出現種類数は、冬季に 18 種類、春季に 17 種類、夏季に 16 種類、秋季に 14 種類であった。湿重量は、冬季に 63.34g/0.09 ㎡、春季に 65.53g/0.09 ㎡、夏季に 6.92g/0.09 ㎡、秋季に 6.44g/0.09 ㎡であった。

表 3.2.157　潮間帯生物（植物）調査結果概要

調査期日：冬季　平成26年 2月27日
：春季　平成26年 4月25日
：夏季　平成26年 7月15日
：秋季　平成26年10月 8日

項目	調査地点	冬季	春季	夏季	秋季
種類数	紅色植物門	9	7	7	8
	不等毛植物門	2	1	1	1
	緑色植物門	5	7	5	3
	その他	2	2	3	2
	合計	18	17	16	14
湿重量	紅色植物門	2.85	4.54	0.27	1.57
	不等毛植物門	+	+	+	+
	緑色植物門	57.68	60.98	6.50	0.10
	その他	2.81	0.02	0.15	4.77
	合計	63.34	65.53	6.92	6.44
湿組成量比(%)	紅色植物門	4.5	6.9	3.8	24.3
	不等毛植物門	+	+	<0.1	+
	緑色植物門	91.1	93.0	94.0	1.6
	その他	4.4	<0.1	2.1	74.1
主な出現種と湿重量 (g/0.09m^2) （ ）内は組成比率(%)		ｱｵｻ属 32.22 (50.9) ﾎﾞﾀﾝｱｵｻ 13.43 (21.2) ﾋﾄｴｸﾞｻ 12.04 (19.0)	ﾋﾄｴｸﾞｻ 44.97 (68.6) ﾎﾞﾀﾝｱｵｻ 8.30 (12.7) ｱｵｻ属 7.60 (11.6)	ﾎﾞﾀﾝｱｵｻ 6.38 (92.3)	藍藻綱 4.72 (73.2) ﾌｼﾞﾏﾂﾓ科 0.48 (7.4) ｲｿﾀﾞﾝﾂｳ 0.42 (6.5) ｺｹﾓﾄﾞｷ属 0.33 (5.2)

注：1.種類数は、総出現種類数を示した。
2.湿重量及び湿重量組成比欄の+は、0.01g 未満の場合を示した。
3.主な出現種は各季の上位 5 種（ただし、組成比が 5%以上）を示した。
4.項目ごとの合計は全調査地点の平均値のため、合計が合わない場合がある。

c) 海藻草類

平成 25 年度における海藻草類の定点の調査結果概要は、表 3.2.158 に、測線の調査結果概要は、表 3.2.159 に示すとおりである。調査の結果、5 門 6 綱 24 目 55 科 223 種が確認された。また、分布調査では、被度階級別面積は表 3.2.160 に、海藻草類の分布状況は、図 3.2.69 に示すとおりである。

表 3.2.158　海藻草類の定点調査結果概要

調査期日：冬季　平成 26 年 1 月 24,28～30 日、2 月 17 日
：春季　平成 26 年 4 月 9～10 日、5 月 2～3 日
：夏季　平成 26 年 7 月 3～4,11,21 日
：秋季　平成 26 年 10 月 2,16,25,30 日

調査時期		平成26年			
項目		冬季	春季	夏季	秋季
出現種類数		111	97	91	81
		(7　～　43)	(2　～　36)	(5　～　33)	(9　～　36)
生存被度		<1%　～　80%	<1%　～　80%	<1%　～　75%	<5%　～　75%
分類群ごとの出現種類数	藍色植物門	1	1	1	1
	紅色植物門	43	40	37	37
	不等毛植物門	18	14	14	9
	緑色植物門	44	37	34	29
	種子植物門	5	5	5	5
主な出現種		ｲﾜﾉｶﾜ科 ﾘｭｳｷｭｳｽｶﾞﾓ ｻﾋﾞ亜科(無節ｻﾝｺﾞﾓ類) ｲﾊﾞﾗﾉﾘ属 藍藻綱	ｻﾋﾞ亜科(無節ｻﾝｺﾞﾓ類) ﾘｭｳｷｭｳｽｶﾞﾓ ｲﾜﾉｶﾜ科 ｲｷﾞｽ属	ﾘｭｳｷｭｳｽｶﾞﾓ ｻﾋﾞ亜科(無節ｻﾝｺﾞﾓ類) ｲﾜﾉｶﾜ科 ﾍﾞﾆｱﾏﾓ ﾏﾂﾊﾞｳﾐｼﾞｸﾞｻ	藍藻綱 ﾘｭｳｷｭｳｽｶﾞﾓ ｻﾋﾞ亜科(無節ｻﾝｺﾞﾓ類) ｲﾜﾉｶﾜ科 ｺｹｲﾊﾞﾗ

注：1.各季の出現種類数欄の（ ）内は地点ごとの出現種数の範囲を示す。
2.各季の主な出現種は、被度5%以上確認された種を示す。

表 3.2.159　海藻草類の測線調査結果概要

調査期日：冬季　平成 26 年 2 月 17,24～28 日、3 月 1,16 日
：春季　平成 26 年 4 月 11～12,16～19 日
：夏季　平成 26 年 7 月 1～2 日、8 月 15,23,24 日
：秋季　平成 26 年 10 月 14,16,19,31 日、11 月 1,15～17 日

調査時期		平成26年			
項目		冬季	春季	夏季	秋季
出現種類数		170	106	87	85
		(92　～　128)	(105　～　128)	(78　～　116)	(96　～　120)
生存被度		<5%　～　85%	<5%　～　55%	<5%　～　85%	<5%　～　90%
分類群ごとの出現種類数	藍色植物門	1	1	1	1
	紅色植物門	73	85	66	68
	不等毛植物門	28	23	23	19
	緑色植物門	61	69	61	66
	種子植物門	7	5	7	6
主な出現種		ｻﾋﾞ亜科(無節ｻﾝｺﾞﾓ類) ﾊｲｵｵｷﾞ ｲﾜﾉｶﾜ科 ｽｼﾞｱｵﾉﾘ	ｻﾋﾞ亜科(無節ｻﾝｺﾞﾓ類) ﾊｲｵｵｷﾞ ｲﾜﾉｶﾜ科 ｳｽﾕｷｳﾁﾜ ﾓｻﾞｷ属	ｻﾋﾞ亜科(無節ｻﾝｺﾞﾓ類) ｲﾜﾉｶﾜ科 ﾊｲｵｵｷﾞ ﾌﾃﾞﾉﾎ ｳｽﾕｷｳﾁﾜ	ｻﾋﾞ亜科(無節ｻﾝｺﾞﾓ類) ｲﾜﾉｶﾜ科 ﾊｲｵｵｷﾞ ｳｽﾕｷｳﾁﾜ ｻﾎﾞﾃﾝｸﾞｻ属

注：1.各季の出現種類数欄の（ ）内は地点ごとの出現種数の範囲を示す。
2.各季の主な出現種は、被度5%以上確認された種を示す。

表 3.2.160　海藻草類の被度階級別面積

調査期日：冬季　平成 26 年 1 月 29～30 日
春季　平成 26 年 4 月 14～15 日
夏季　平成 26 年 7 月 14～15 日、21 日、25 日
秋季　平成 26 年 10 月 23 日

単　　位：ha

藻場構成種の被度区分		冬季	春季	夏季	秋季
海草藻場	10%未満	10.6	11.0	14.5	20.7
	10%以上 30%未満	14.9	15.0	13.1	9.0
	30%以上 50%未満	7.0	5.5	7.4	4.8
	合計	32.6	31.6	35.0	34.5
ホンダワラ類藻場	10%未満	8.7	11.8	8.4	8.1
	10%以上 30%未満	－	1.1	－	－
	30%以上 50%未満	－	0.1	－	－
	合計	8.7	13.0	8.4	8.1
海草類・ホンダワラ類の混生藻場	10%未満	3.4	10.6	1.6	4.3
	10%以上 30%未満	18.8	9.3	19.2	15.8
	30%以上 50%未満	0.2	－	0.2	－
	合計	22.4	19.9	20.9	20.1
合計		63.6	64.5	64.3	62.7

注：小数点 2 桁以下を四捨五入。

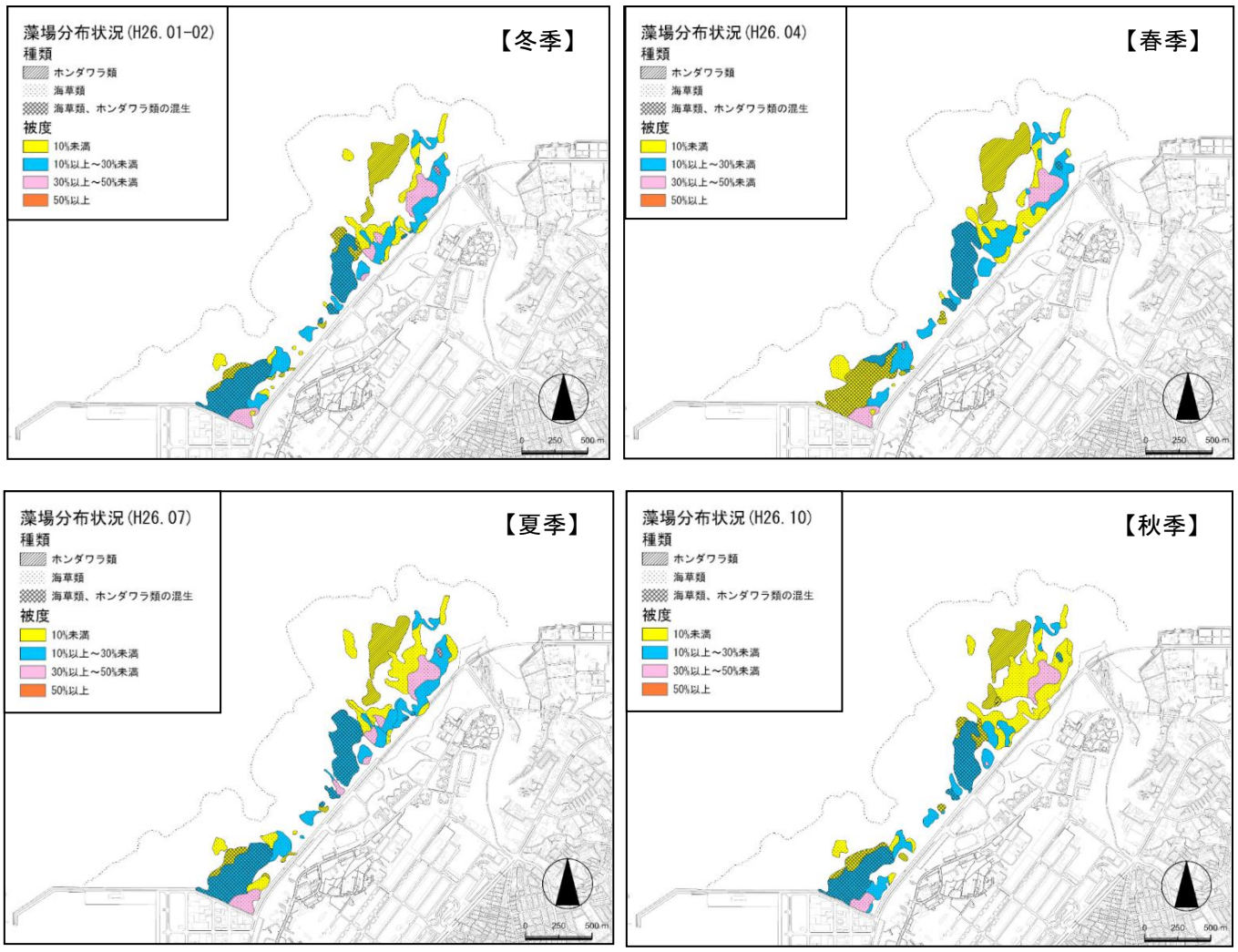


図 3.2.69　浦添ふ頭地区海域における海藻草類の分布状況（平成 25 年度）

d) カサノリ類（カサノリとホソエガサ）

●定点調査

カサノリ類は、St.18 以外の 5 地点で確認された。

コドラート（2m×2m）内におけるカサノリの被度は全地点で 5%未満、株数は St.12 と St.14 で 101～500 本、その他の 3 地点で 11～100 本の範囲にあった。生長段階は傘状体もしくは輪生枝であり、着生基盤は枝状サンゴ礫であった。

一方、ホソエガサの被度は全地点で 5%未満、株数は St.12～14 で 11～50 本、St.15 と St.16 で 10 本以下であった。生長段階は傘状体もしくは衰退した状態であり、着生基盤は枝状サンゴ礫であった。

●分布調査

平成 25 年度におけるカサノリ類の分布面積は表 3.2.161 に、分布状況は、図 3.2.70 及び図 3.2.71 に示すとおりである。カサノリ類調査では、浦添ふ頭地区のリーフ内で、橋梁部前面を中心としてカサノリとホソエガサが広い範囲で確認された。カサノリ及びホソエガサの分布範囲は大きく変わらず、南側ではカサノリのみが生育している箇所がみられた。カサノリ及びホソエガサともに全生育箇所における被度は 5%未満であり、全域でホソエガサの被度はカサノリと比べて低かった。

表 3.2.161　カサノリ類の分布面積(平成 25 年度)

単位:ha

区分	被度	H25年度
カサノリ	被度5%未満	7.7
ホソエガサ	被度5%未満	7.3
カサノリ類	被度5%未満	7.8

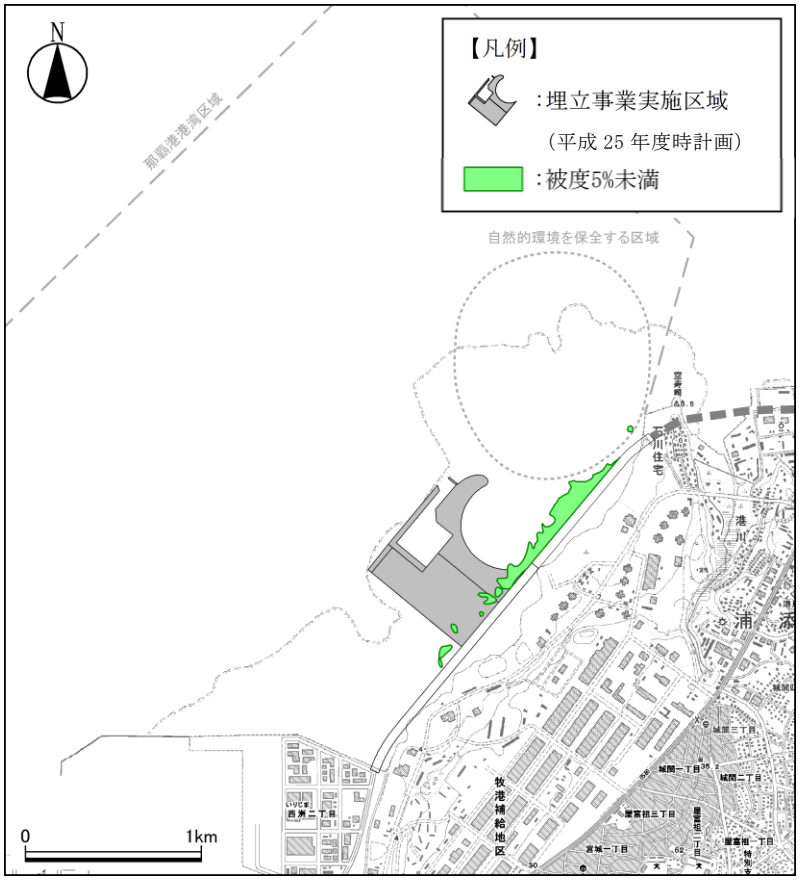


図 3.2.70　カサノリ類（カサノリとホソエガサ）の分布状況(平成 25 年度)



図 3.2.71　カサノリ（上図）とホソエガサ（下図）の分布状況(平成 25 年度)

(c) 調査結果（令和 3 年度）

a) 植物プランクトン

令和 3 年度における植物プランクトンの調査結果概要は、表 3.2.162 に示すとおりである。総出現種類数は、夏季に 42 種類、冬季 89 種類であった。細胞数は、夏季に 21,137 細胞/L、冬季に 7,667 細胞/L であった。

表 3.2.162　植物プランクトン調査結果概要

調査期日：令和3年9月23日
：令和4年1月21日

項目	調査地点	夏季	冬季
沈殿量（mL/L）		0.02	0.01
種類数	渦鞭毛藻綱	10	17
	珪　藻　綱	26	66
	そ　の　他	6	6
	合　　計	42	89
細胞数（細胞/L）	渦鞭毛藻綱	2,060	706
	珪　藻　綱	18,448	4,680
	そ　の　他	629	2,281
	合　　計	21,137	7,667
細胞数組成比（%）	渦鞭毛藻綱	9.7	9.2
	珪　藻　綱	87.3	61.0
	そ　の　他	3.0	29.8
主な出現種と細胞数（細胞/L） （ ）内は組成比率（%）		*Nitzschia* sp. (chain formation) 13,146 (62.2)	CRYPTOMONADALES 764 (10.0)

注：1.主な出現種は各季の上位 5 種（ただし、組成比が 10%以上）を示した。
2.種類数は総種類数を示した。

b) 海藻草類

令和 3 年度における海藻草類の調査結果概要は、表 3.2.163 に、構成種の被度区分別の分布状況は表 3.2.164 及び図 3.2.72 に示すとおりである。

リーフ内の干出礁原において、海草藻場のほか海草類と海藻類の混生藻場がモザイク状に分布していた。これは底質が関係しており、砂地であれば海草藻場(アマモ類)、岩礁であれば海藻藻場（ホンダワラ類)、砂と岩礁が入り交じっている場所では混生藻場が分布していると考えられる。

表 3.2.163　海藻草類定点調査結果概要（種類数）

調査期日：夏季　令和 3 年 9 月 7,8,17,23 日、10 月 8 日
：冬季　令和 4 年 1 月 19,21,27 日、2 月 2 日

調査時期 項目		令和3年	
		夏季	冬季
出現種類数		82	99
		(2　～　35)	(16　～　43)
生存被度		<1%　～　70%	20%　～　65%
分類群ごとの出現種類数	藍色植物門	3	2
	紅色植物門	34	41
	不等毛植物門	9	15
	緑色植物門	24	31
	種子植物門	11	9
主な出現種		ﾘｭｳｷｭｳｽｶﾞﾓ ｻﾝｺﾞﾓ目（無節ｻﾝｺﾞﾓ類）	ﾘｭｳｷｭｳｽｶﾞﾓ ｻﾝｺﾞﾓ目（無節ｻﾝｺﾞﾓ類） ﾍﾞﾆｱﾏﾓ ﾏﾂﾊﾞｳｼﾞｸﾞｻ ｷﾂﾈﾉｵ

注：1.各季の出現種類数欄の（ ）内は地点ごとの出現種数の範囲を示す。
2.各季の主な出現種は、被度 5%以上確認された種を示す。

表 3.2.164　海藻草類構成種の被度区分別の分布面積

単位：ha

藻場構成種の被度区分		夏季	冬季
海草藻場 (アマモ類)	被度10%未満	35.8	35.8
	被度10%以上30%未満	30.2	30.9
	被度30%以上50%未満	6.5	6.8
	被度50%以上	1.0	1.0
	小計	73.5	74.5
海藻藻場 (ホンダワラ類)	被度10%未満	1.0	1.8
	被度10%以上30%未満	-	-
	被度30%以上50%未満	-	-
	被度50%以上	-	-
	小計	1.0	1.8
海草・海藻の混成藻場	被度10%未満	21.9	21.9
	被度10%以上30%未満	18.5	17.8
	被度30%以上50%未満	1.7	1.3
	被度50%以上	-	-
	小計	42.1	41.0
合計		116.6	117.3

注：小数点2桁以下を四捨五入

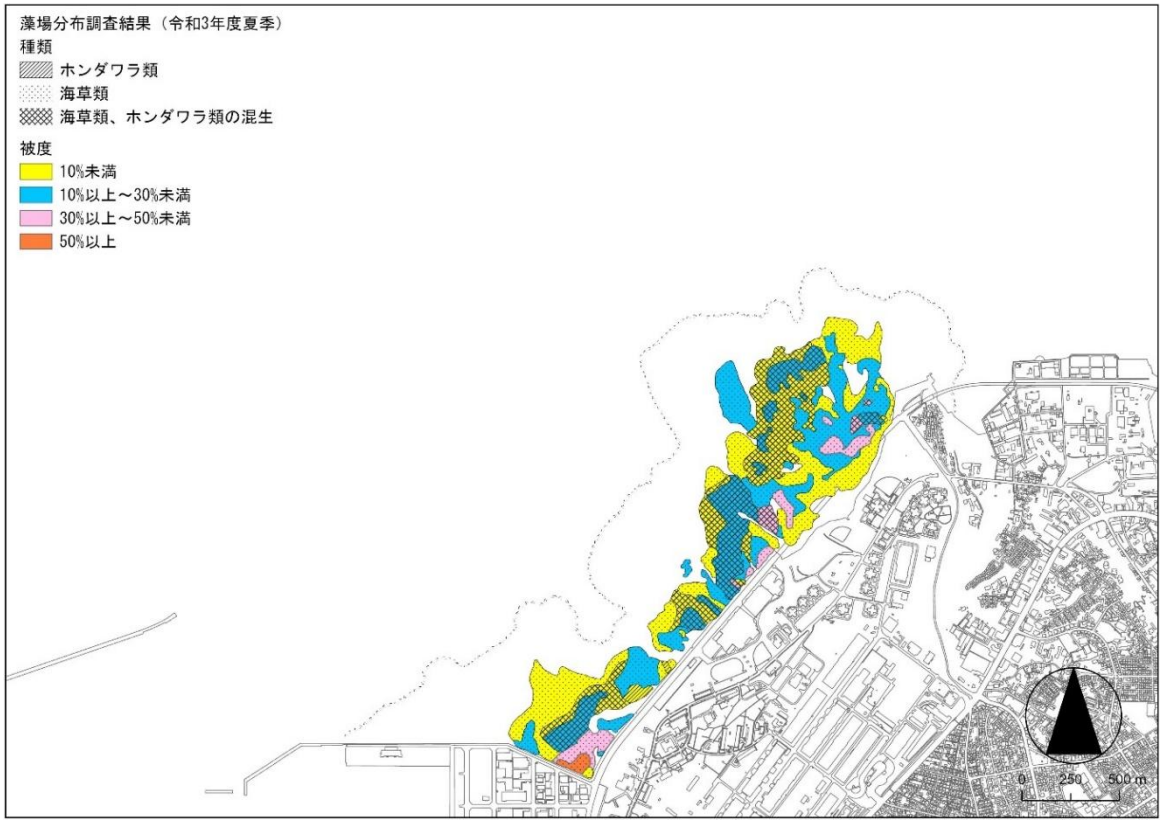


図 3.2.72(1)　藻場分布状況（令和 3 年度夏季）

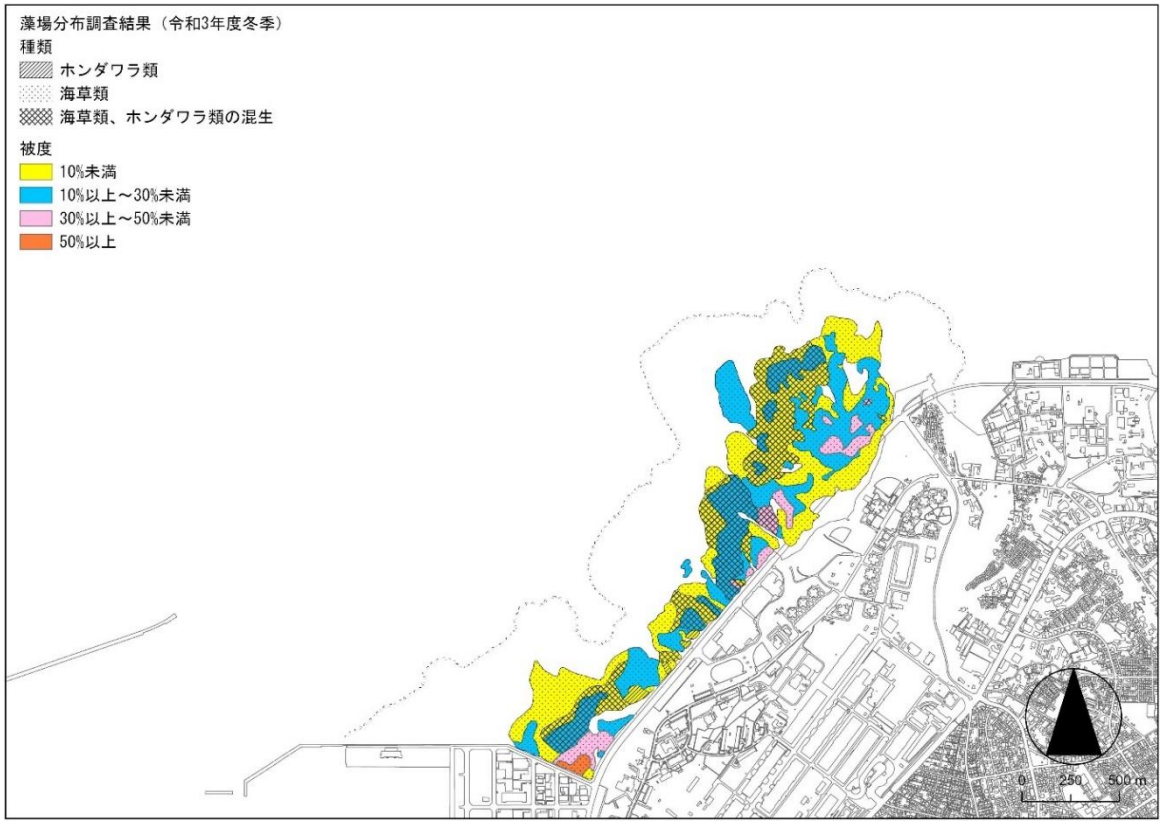


図 3.2.72(2)　藻場分布状況（令和 3 年度冬季）

c) カサノリ類

令和 3 年度におけるカサノリ及びホソエガサの分布面積は表 3.2.165 に、カサノリ及びホソエガサの分布状況は図 3.2.73 に、スポット調査結果は表 3.2.166 に示すとおりである。

令和 3 年 12 月の調査では、カサノリ類は主に浦添ふ頭地区の橋梁部付近で確認された。1・2 月調査時では 12 月調査時に比べて分布域が橋梁南端部よりも南側に拡大した。カサノリ及びホソエガサの分布範囲は概ね重複しており、どちらも被度は 5%未満であった。

表 3.2.165　カサノリ及びホソエガサの分布面積(令和 3 年度)

種名	被度	面積(ha)		
		R3.12	R4.1	R4.2
カサノリ	被度5%未満	8.6	16.0	16.8
ホソエガサ	被度5%未満	7.4	15.5	16.8

カサノリ	ホソエガサ
	
1 回目（令和 3 年 12 月調査）	
	
2 回目（令和 4 年 1 月調査）	
	
3 回目（令和 4 年 2 月調査）	

撮影：令和 2 年 11 月（令和 3 年 2 月作成、那覇港湾・空港整備事務所）

図 3.2.73　カサノリ及びホソエガサの分布状況

表 3.2.166（1）　スポット調査結果（12 月調査）

調査年月日：令和 3 年 12 月 16 日（1～4）、令和 3 年 12 月 17 日（5～7）

	枠番号	1	2	3	4	5	6	7
	時間	13:25	13:01	13:17	12:20	11:40	10:48	10:55
	水深	0.5	0.4	0.3	0.5	0.1	0.3	0.3
	水温	23.0	23.0	24.0	23.0	23.0	23.0	23.0
	底質	砂・小礫	砂・小礫	砂・小礫	砂・小礫	砂・小礫	砂	砂
●カサノリ類	総被度（%）	<5	<5	<5	<5	0	<5	<5
	カサノリ	<5	<5	<5	<5		<5	<5
	ホソエガサ	<5	<5	<5	<5			<5
特記事項					1株づつ		7株	

表 3.2.166（2）スポット調査結果（1 月調査）

調査年月日：令和 4 年 1 月 14 日（1～3，8）、令和 4 年 1 月 17 日（4～7）

	枠番号	1	2	3	4	5	6	7	8
	時間	9:24	12:18	12:19	12:34	13:18	12:59	12:25	11:34
	水深	0.4	0.5	0.3	0.5	0.1	0.1	0.1	0.4
	水温	19.0	18.0	19.0	18.0	18.0	18.0	18.0	18.0
	底質	砂・小礫	砂・小礫	砂・小礫	砂・小礫	砂・小礫	砂	岩・砂	砂
●カサノリ類	総被度（%）	<5	<5	<5	<5	0	<5	<5	<5
	カサノリ	<5	<5	<5	<5		<5	<5	<5
	ホソエガサ	<5	<5	<5	<5		<5	<5	<5
特記事項		カサノリ3株 ホソエガサ6株			カサノリ1株 不明1株				1月新設 シルト多い

表 3.2.166（3）スポット調査結果（2 月調査）

調査年月日：令和 4 年 2 月 16 日（1～2，8～10）、令和 4 年 2 月 17 日（3～7）

	枠番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	時間	11:09	11:35	12:56	11:31	11:56	12:14	12:08	12:29	12:00	12:55
	水深	0.4	0.4	0.3	0.6	0.1	0.1	0.1	0.4	0.4	0.3
	水温	20.0	20.0	19.0	17.0	18.0	18.0	18.0	18.0	19.0	19.0
	底質	砂・小礫	砂・小礫	砂・小礫	砂・小礫	砂・小礫	砂	岩・砂	砂	砂・小礫	砂・小礫
●カサノリ類	総被度（%）	<5	<5	<5	<5	0	<5	<5	<5	<5	<5
	カサノリ	<5	<5	<5	<5		<5	<5	<5	<5	<5
	ホソエガサ	<5	<5	<5	0		<5	<5	<5	<5	<5
特記事項									1月新設 シルト多い	2月新設	2月新設

(d) 重要な種の出現状況

平成 25 年度に確認された重要な種は、表 3.2.167 に、令和 3 年度に確認された重要な種は、表 3.2.168 に示すとおりである。

表 3.2.167　重要な種一覧（海藻草類、平成 25 年度）

No.	門	綱	目	科	種名	環境省第5次RL	沖縄県RDB 2018	平成25年度			
								冬季	春季	夏季	秋季
1	紅色植物	紅藻	ｳﾐｿﾞｳﾒﾝ	ｶｻﾏﾂ	ﾊｲｺﾅﾊﾀﾞ	NT	NT		○		○
2				ｶﾞﾗｶﾞﾗ	ｼﾞｭｽﾞﾌｻﾉﾘ		NT	○	○		
3				ｺﾅﾊﾀﾞ	ﾍﾞﾆﾓｽﾞｸ		VU		○		
4				ｳﾐｿﾞｳﾒﾝ	ﾇﾙﾊﾀﾞ	DD	VU		○	○	○
5			ｽｷﾞﾉﾘ	ﾘｭｳﾓﾝｿｳ	ｴﾂｷﾋﾋﾞﾛｳﾄﾞ		DD	○	○		○
6				ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	ﾌｲﾘｸﾞｻ		NT	○	○	○	
7				ﾐﾘﾝ	ｶﾀﾒﾝｷﾘﾝｻｲ	DD	NT	○	○		○
8			ｵｺﾞﾉﾘ	ｵｺﾞﾉﾘ	ﾘｭｳｷｭｳｵｺﾞﾉﾘ	NT	NT		○		○
9			ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	ﾍﾞﾆｺﾞｳｼ	DD	VU	○	○	○	○
10				ｺﾉﾊﾉﾘ	ｶﾗｺﾞﾛﾓ		VU	○	○		○
11					ﾍﾞﾆﾊｳﾁﾜ		DD	○	○		○
12				ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	ﾊﾅﾔﾅｷﾞ		CR+EN		○		
13	不等毛植物	褐藻	ｶﾔﾓﾉﾘ	ｶﾔﾓﾉﾘ	ｶﾔﾓﾉﾘ		DD	○	○		
14			ｹﾔﾘﾓ	ｹﾔﾘﾓ	ｳﾐﾎﾞｯｽ		CR+EN	○			
15			ﾋﾊﾞﾏﾀ	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ	ﾔﾊﾞﾈﾓｸ		NT	○	○	○	○
16					ｺﾊﾞﾓｸ	DD	VU	○	○	○	○
17					ｳﾐﾄﾗﾉｵ		CR+EN	○			
18	緑色植物	緑藻	ｼｵｸﾞｻ	ｳｷｵﾘｿｳ	ﾎｿﾊﾞﾛﾆｱ	DD	NT	○	○	○	○
19			ﾐﾄﾞﾘｹﾞ	ﾏｶﾞﾀﾏﾓ	ﾏｶﾞﾀﾏﾓ		NT	○		○	○
20					ｸﾀﾞﾈﾀﾞｼｸﾞｻ		DD	○	○		
21			ｲﾜｽﾞﾀ	ｲﾜｽﾞﾀ	ｸﾋﾞﾚｽﾞﾀ	DD		○	○	○	○
22					ﾋﾅｲﾜｽﾞﾀ	VU	VU	○	○	○	○
23					ｷｻﾞﾐｽﾞﾀ	DD	VU	○	○	○	○
24					ｲﾁｲｽﾞﾀ		VU	○	○		○
25				ﾊｺﾞﾛﾓ	ｺﾃﾝｸﾞﾉﾊｳﾁﾜ	DD	NT				○
26					ｿﾘﾊｻﾎﾞﾃﾝｸﾞｻ	NT	NT	○	○	○	○
27					ﾋﾛﾊｻﾎﾞﾃﾝｸﾞｻ	NT	NT			○	○
28					ﾌｻｻﾎﾞﾃﾝｸﾞｻ	NT	NT	○	○	○	○
29					ﾆｾﾊｳﾁﾜ		DD	○	○	○	○
30			ﾊﾈﾓ	ﾊﾈﾓ	ﾊﾈﾓﾓﾄﾞｷ	DD	NT	○	○		
31			ｶｻﾉﾘ	ﾀﾞｼﾞｸﾗｽﾞｽ	ｶﾀﾐｽﾞﾀﾏ	NT	NT		○		
32					ｳｽｶﾞｻﾈ	VU	VU	○	○	○	○
33				ｶｻﾉﾘ	ﾎｿｴｶﾞｻ	NT	CR+EN	○	○		○
34					ｶｻﾉﾘ	VU	NT	○	○	○	
35	種子植物	単子葉植物	ｵﾓﾀﾞｶ	ﾄﾁｶｶﾞﾐ	ﾘｭｳｷｭｳｽｶﾞﾓ	NT		○	○	○	○
36					ｳﾐﾋﾙﾓ	NT		○	○	○	○
37					ｵｵｳﾐﾋﾙﾓ		EN	○		○	○
38				ｱﾏﾓ	ｺｱﾏﾓ		VU	○			
39				ﾍﾞﾆｱﾏﾓ	ｳﾐｼﾞｸﾞｻ	NT	NT	○	○	○	○
40					ﾏﾂﾊﾞｳﾐｼﾞｸﾞｻ	NT	VU	○	○	○	○
41					ﾍﾞﾆｱﾏﾓ	NT		○	○	○	○
42					ﾘｭｳｷｭｳｱﾏﾓ	NT				○	
出現種類数						42種	25種	37種	33種	34種	23種	29種

表 3.2.168　重要な種一覧（海藻草類、令和 3 年度）

No.	門	綱	目	科	種名	環境省第5次RL	沖縄県RDB 2018	令和3年度	
								夏季	冬季
1	不等毛植物	褐藻	ﾋﾊﾞﾏﾀ	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ	ﾔﾊﾞﾈﾓｸ		NT		○
2		黄緑藻	ﾌｼﾅｼﾐﾄﾞﾛ	ﾌｼﾅｼﾐﾄﾞﾛ	ｳﾐﾌｼﾅｼﾐﾄﾞﾛ	NT	CR+EN		○
3	緑色植物	緑藻	ﾐﾄﾞﾘｹﾞ	ﾏｶﾞﾀﾏﾓ	ﾏｶﾞﾀﾏﾓ		NT	○	
4			ｲﾜｽﾞﾀ	ﾊｺﾞﾛﾓ	ﾌｻｻﾎﾞﾃﾝｸﾞｻ	NT	NT	○	○
5			ｶｻﾉﾘ	ﾀﾞｼﾞｸﾗｽﾞｽ	ｳｽｶﾞｻﾈ	VU	VU		○
6				ｶｻﾉﾘ	ﾎｿｴｶﾞｻ	NT	CR+EN		○
7					ｶｻﾉﾘ	VU	NT		○
8	種子植物	単子葉植物	ｵﾓﾀﾞｶ	ﾄﾁｶｶﾞﾐ	ﾘｭｳｷｭｳｽｶﾞﾓ	NT		○	○
9					ｳﾐﾋﾙﾓ	NT		○	○
10					ｵｵｳﾐﾋﾙﾓ		EN	○	○
11					ﾋﾒｳﾐﾋﾙﾓ		EN	○	
12				ﾍﾞﾆｱﾏﾓ	ﾎｿﾊﾞｳﾐｼﾞｸﾞｻ		NT		○
13					ﾏﾂﾊﾞｳﾐｼﾞｸﾞｻ	NT	VU	○	
14					ﾍﾞﾆｱﾏﾓ	NT		○	○
15					ﾘｭｳｷｭｳｱﾏﾓ	NT		○	
出現種類数					15種	10種	11種	9種	11種

＜重要な種の選定基準＞

注：以下の①～②に該当しているものを「重要な種」として選定した。

①環境省 RL：「環境省第５次レッドリスト（植物・菌類）の公表について」（環境省、令和 7 年 3 月 18 日）に記載されている種及び亜種

- CR+EN（絶滅危惧Ⅰ類）：絶滅の危機に瀕している種
- CR（絶滅危惧ⅠA類）：絶滅の危機に瀕している種のうち、ごく近い将来における野生での絶滅の可能性が極めて高いもの
- EN（絶滅危惧ⅠB類）：絶滅の危機に瀕している種のうち、IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
- VU（絶滅危惧Ⅱ類）：絶滅の危険が増大している種
- NT（準絶滅危惧）：存続基盤が脆弱な種。現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
- DD（情報不足）：評価するだけの情報が不足している種
- LP（絶滅のおそれのある地域個体群）：地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群

②沖縄県 RDB：「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第 3 版（菌類編・植物編）―レッドデータおきなわ―」（沖縄県、平成 30 年）に記載されている種及び亜種

- CR+EN（絶滅危惧Ⅰ類）：沖縄県では絶滅の危機に瀕している種
- CR（絶滅危惧ⅠA類）：沖縄県ではごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
- EN（絶滅危惧ⅠB類）：沖縄県ではⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
- VU（絶滅危惧Ⅱ類）：沖縄県では絶滅の危機が増大している種
- NT（準絶滅危惧）：沖縄県では存続基盤が脆弱な種
- DD（情報不足）：沖縄県では評価するだけの情報が不足している種
- LP（絶滅のおそれのある地域個体群）：沖縄県で地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれの高いもの